

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査の結果について(大学等)

機関 連番	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											改組有					
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず						
1	留学生の在留に対する理解	入管法改正等 申請取次			○							留学生の在 留に対する理 解	入管法改正等 申請取次			○												
2	①新任教職員オリエンテーション(大学人 事部主催) 専任教員のみ対象(目的) 立教大学全般、および必要な事務手続き 等について理解 ②新任教員オリエンテーション(ランゲージ センター主催) 教育講師のみ対象(目的) 立教大学全般、および必要な事務手続 き等について、特に教育講師の関連する 情報の理解 ③担当者連絡会(日本語教育研究室主 催) 日本語担当教員対象(目的)教材 使用法・教授法の理解	①立教のキリスト教について/教務部および全 カリについて/人権・セクシャルハラスメントにつ いて/人事課からのお知らせ ②ランゲージセンターについて/人事規定につ いて/研究支援について ③新任教員に対する教材使用法、教授法などの オリエンテーション	①年1回 /約5時 間 ②年1回 /約5時 間 ③年4回 /時間は 不定						○		クラス別運用 状況の確認、 教材使用法、 教授法の伝 授	クラス運営状況のレベル別報告、ならびに次学期に 向けての内容改善/新任教員に対する教材使用 法、教授法などのオリエンテーション/当該年度の 総括ならびに次年度に向けての方針確認	年4回/ 時間は不 定							○								
3										○													○					
4	新規採用者はありませんでした。										○	現職教師は2 名で、常に (週一回程 度)日本語教 育についての 話し合いを し、研鑽をつ んでいる											○					
5	平成21年度は初任者がいなかったため実 施していない										○	(1)現職教師 に対して当セ ンターの教育 に関する基本 理念・基本原 則の徹底を 図る (2)指導して いる学生の基 礎情報や学 習上の問題 を教師間で共 有する。 (3)日本語プ ログラムに関 する問題点を 探り改善する	春学期、 秋学期と も、学期 前・学期 後に1回 ずつ約2 時間の ミーティ ングを開 催。合計 8時間。	担当者間 の授業内 容・クラス 運営につ いての討 議は随時 行われて いる。												○		
6		理事長及び学長による講義、人事課による制度 関係のオリエンテーション	全体で一 時間半								○	●職員研修会 1. 理事長による講演、2外部講師による講演(これ から期待される私立学校~少子化を生き抜く~)、 3. グループ討議及び発表、4. 外部講師による講演 (大学教育の質的充実と大学間連携) ●FDシンポジウム 学内担当者による講演。1. 教育方法と改善につ いて(板書について)、2. 基礎学力向上のための試 み、3. 基礎学力の向上について、プレゼンタルで の取り組み、4. 就職への基礎学力 ●人権教育委員会研修会(2月) 専門家による講演。講師:落合俊郎氏(広島大学大 学院教育学研究課教授)、題目:「共生社会をめざし た高等教育-発達障害のある学生の支援に焦点を あてて」	2日間 1日 1時間半														○	
7	無し										○												○					
8	無し	無し	無し	無し							○	1. プログラム 全体で推進し ている「自律 学習」につ いて理解考察を 深める。 2. 本学プロ グラムの多く の教員が利 用しているE ラーニング (MOODLE) の利用の仕 方の幅を広げ る。	1. 理論編と実践編に分かれており、理論編のため には企画・運営担当者が指定したα文献を事前に読 んで集まり、議論した。実践編では参加者が各自の 経験について語り、考えを共有した。 2. 全学で導入されているオンライン教育システムで あるMOODLEを利用した学生向けオリエンテーション について情報交換と体験を通じて行った。	1. 1日 (7時間) 2. 1日 (2時間 半)														○

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査 入シート(大学等)

機関連番	機関名	【2】 1 採用 19年/20年/21年					2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					19年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					20年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					21年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					19年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					20年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					21年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明				
		0	1	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
1	鈴鹿短期大学	0	1	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2	立教大学	0	0	3	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
3	鹿児島大学	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
4	京都工芸繊維大学	2	2	2	000	000	000	000	001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
5	金沢大学留学生センター	0	0	0	000	000	000	000	001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
6	広島国際学院大学	0	0	1																																										
7	創価大学日本語別科	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
8	桜美林大学	2	0	0	000	000	001	000	100	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	000	000	100	001	000	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		

機関連番	機関名	【2】 1 採用 19年 20年 21年			2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					19年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					20年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					21年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					19年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					20年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					21年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明				
9	名古屋大学																																											
10	山梨大学留学センター	1	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																				
11	大阪大学日本語日本文化教育センター	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																				
12	関西外国語大学			1	000	000	001	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	000	000	000	010	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		5	3	7	0	0	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
		15			5					1				0					4				4				1					1				3								

機関 連番	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											改組有						
	区分											区分																	
研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	改組有							
9	無し										○	教員各自が19年度から21年度の3年間にわたるFD活動の綿密な計画を立案し、継続的にFD活動を行うというものである。このような基本方針に基づき、教員各自が「FD活動計画書」を作成した。平成19年度、20年度は上記の活動計画に従って教員各自がFD活動を行った。さらに、各年度とも各教員が「FD活動中間報告書」を執筆した。今年度(平成21年度)は上記の計画に基づくFD活動の最終年度であり、教員各自が計画に従ってFD活動を行った。さらに、以下の原則に基づき、各教員が「FD活動最終報告書」を執筆した。(以下原票参照のこと)																○	
10	21年度新規採用はありませんでした。										○	①と②の異なる研修について書いています。 ①全学的なFDにてEラーニングを教育へ取り入れようという目的で全員出席 ②互いの教え方から学ぶ	①MOODLEを使つてのEラーニング、基本操作と何ができるか。課題管理やフィードバックの仕方。 ②Peer Obsevation	①2時間 ②互いの授業をビデオ間で2回ずつ見学、後に意見交換												○			
11	本センターが提供する日本語プログラム及び本センターで学ぶ留学生の背景について周知するとともに、初任者が担当する予定の科目やクラスのレベル設定および到達目標について理解を深める。	当センターのミッション、受け入れ留学生の背景、各プログラムの教育目標等について説明をおこなった。選択科目については、授業計画立案の参考に資するため、各々の科目の日本語レベル・評価方法・履修可能学生等について説明をおこなった。また、同一クラスを複数の教員が担当する必修日本語科目に関しては、進捗計画・定期試験・使用教科書および担当クラスの日本語レベルについて周知した。さらに、現職教員と新任教員を交え、同科目ないし同クラスの担当者が懇談する場を設け、授業や学生等に関する情報の共有を図った。本センターの授業運営本心についてさらに理解を深めてもらうため、各科目コーディネーター(センター専任教員)が回答する形で質疑応答の時間を設けた。	2010年3月20日(土) 2時間 時間内に担当する科目やクラス毎のセッションを設定した。								○													○	○				
12	①学生を公平に扱う ②教授法の研 ③プログラムの内容把握	①新任教員対象の人権問題研修会 ②FD新任教員研修会 ③日本語プログラムの仕事の内容、諸注意事項、成績のつけ方	①一学期に1~2時間 ②一学期に1時間 ③特に期間はなく、個別に対応								○	①学生に公平に接するため ②教授法など更なる研	①人権問題研修会 ②FD教員研修会	①一学期に1~2時間 ②一学期に1時間	日本語学科では現職教師への研修は特に行っていないが、毎週行われる会議や学期初め(1週間)、学期末(3日間)の会議で一般諸問題を取り上げている										○				
			計	1	0	0	0	0	0	4	7			計	1	0	0	3	0	0	7	3	2						

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有										
	区分				区分																		
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的		研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず
1											○	教師のコミュニケーション能力の向上を図る	NLPの理論とワークショップ	2009年9月～2009年11月 1回実施 1回3時間 計9時間									○
2	・日本語教師としての心構えを持つ。 ・本校のカリキュラムに合わせたテキストの進め方に慣れる。	・テキストの進め方 ・模擬授業 ・反省会	@100×10時間(5日間)	授業のビデオ撮影・録音(自己反省用)							○	・各講師個人レベルでのスキルアップ ・学校全体の教育水準の向上。	各人が持ち回りで課題を選び、調査・研究等を行う。それを発表し、意見交換などを行う。	月に2回、90分程度	授業見学→意見交換→報告書作成。								○
3	当校の教授法を習得することを目的とした研修。また、文法についての考え方を深める。	教案作成→授業→フィードバック等										評価の方法や授業の進め方を改善するため	・成績表の改善(ビジネスクラス対応のため) ・話す能力を上げるための補助教材の開発。	個別にそれぞれ活動して(課題について研究し)、月に1回2時間程度(×12ヵ月)会議をし、テーマを深める。								○	
4	・新規採用者が本校のカリキュラムを熟知するため。 ・新規採用者が本校使用の教材を熟知するため。	・新規採用者に対して本校のカリキュラムの説明 ・教材およびその使用方法の説明 ・授業見学とフィードバック	・カリキュラム、教材、使用方法の説明 5～10時間 ・授業見学 半年に2～4回								○	学校としての教育能力の均衡化、教育の質向上のため	・授業見学とフィードバック ・学生からの評価表と自己評価表をもとに主任教員との面談	半年に1回								○	
5	教師の育成 授業のみならず学校全体の流れ、業界について把握させる。 日本語教師のあるべき姿を理解させ、育成をする。	・学校の全体的な流れの説明 ・各レベルの基本的なやり方の説明 ・教案作成指導 ・現職教師の授業見学及び話し合い ・初任者教師の授業チェック及びフィードバックなど	1週間～3ヵ月程度(これまでの経験や実力による)								○	・現職教師のブラッシュアップ(特に他校での経験者や進め方に悩んでいる教師に対し) ・授業以外の進学指導等の育成	・現職教師への当校の全体説明及び各レベルの進め方説明 ・授業見学及び話し合い ・教案確認(必要に応じて指導、フィードバック) ・授業チェック及びフィードバック ・定期発表会(外部研修会等の内容、感想等発表)など	1週間～1ヵ月程度								○	

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有															
	区分				区分																							
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的		研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず					
7	当校の教育方針に合う授業ができるようサポートする。当校の学生に適した授業ができるようサポートする。 ※日本語教育に関して有経験者(ボランティア)と無経験者の非常勤としての採用者2名に対してそれぞれに行なった。	当校の教育方針や当校の学生に適した日本語の授業が自分で組み立てられ実践できるようサポートする。そのため、週に1回程度授業のチェック及びアドバイスを。アドバイスの内容は、日本語の文法からテクニック、活動方法、学生心理、学生の動かしかな等々多岐にわたる。	約1年間、1回2～3時間。 本人が自身を持って授業ができるようになった段階で打ち切り。									・日本語教師として必要なコミュニケーション能力の向上を図る。 ・日本語教育業界の現況を外部講師から伺うことで客観的に自分の置かれている立場を見直す。	・講師による講義(コミュニケーション過程で何が起るのか) ・伝言ゲームによる実践 ・パネル討議 ・まとめ	5月30日、3時間	当校日本語教師養成講座、公開講座への参加という形にて実施													
12	1. 学期の初めから授業をすることができる 2. 初級クラス授業の手順 3. 職員とのコミュニケーション 4. 直説法で教えるということについて考える ・学習者の身になって授業をする ・教師自身が学んだ外国語としての日本語を、そのまま伝えるのではなく学習者が理解しているものを整理しながら知識を積み上げていけるような授業を考える ・四技能に心を配るのは勿論のことであるが、特に口の練習、発話練習を多く取り入れることを念頭に授業を組み立てられるようにする ・教師説明は極力お	1. 初級クラス授業の留意点 2. テキスト「みんなの日本語」より、いくつか課をとりだしプチ模擬授業を繰り返す。 学習役－研修担当、他の新採用教師－から質問・意見を出させる。互いのアイデアや考えも吸収する。 3. 動詞のグループ分け。乙型の作り方。特にここで学習者の頭になって授業するということが、どういことなのかをしっかりと考える。 4. 先輩の先生方の授業見学。 5. 授業50分のうち、20分程度を実際に受け持ってやらせてもらう。	5日～8日間、延べ30時間～40時間									1. 学習者との関係 2. 説明に流れる授業になっていないか 3. 学習者を引きつける授業になっているか	1月、日本語教育セミナー(京都会議)参加。希望者のみ9月、初級のモデル授業を実施。講師は獨協大学日本語科の先生にお願いした。 1月・6月・11月に赴任1年(時に2年)以内の先生方の授業見学。あと話し合い。 10月、授業方針が異なる先生との面談、問題解決。希望者には、授業風景をビデオに撮り自己研鑽に役立てています。	9月のモデル授業は全員参加。	これからの課題として、授業(教授法等)について、勉強会を復活させたいと考えている。													
13	①学校の教育方針、教育内容について理解を深める ②学校全体の教育活動・クラスについて状況を把握する ③他の教師との関係をつくる	①授業見学(他の教師の授業を見学する) ②授業観察・フィードバック(他の教師に自分の授業を見学に来てもらう)	教師の経験年数、実績により期間・時間数を決定する。									新任研修とほぼ同様																
18	学校法人大原学園の教員となるにあたっての基本的な心がまえ、マナーを身につける。	・教員としての基本的なマナー、受講生との接し方 ・教員の心得 ・板書の仕方 ・コミュニケーションについて	2泊3日、約20時間									教員の教育能力の向上	①新しい日本語能力検定試験についての見当 ②中級以上の学生に対する読解授業の進め方検討	①②とも、それぞれ3時間程度		○												

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有										
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																		
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず												
21	<p>・学校の特色を知ってもらう：①②③ ・自分の模擬授業の内省：③④⑤ ・教えるということについて考え直す：①②③④⑤ ・スムーズに授業が始められるよう：①③④⑤</p>	<p>①学校説明(理念、歴史、現状等) ②Can do statements への取り組み等 ③模擬授業フィードバック、授業見学のポイント、教案分析の方法 ④教材分析(「みんなの日本語」「中級から学ぶ日本語」) ⑤実際の授業を見学してもらう→フィードバック、レポート作成</p>	<p>3日間 ①60分 ②60分 ③100分 ④180分 ⑤90分</p>																				
22	<p>未経験者も採用しているため、養成講座等の実習経験はあっても、実際に教壇に立ったことがない初心者の方に、スムーズに現場に入ってきてもらい、また、学習者に対しても一定の水準以上の授業の質を確保するために個別に研修を行っている。</p>	<p>・授業見学及びフィードバック ・指導担当者のクラスで模擬授業を行う ・担当するレベル、クラスに即した内容の教案指導 ・指導担当者が初任者の授業を見学しフィードバックする</p>	<p>週1時間～1時間半程度、約3ヵ月</p>																				
26				通常業務を通して業務の流れ、教育方針を理解、習得していく。																			

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				区分								2 現職教員への研修				区分								改組有
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず			
31	本校の教員採用は、まず非常勤(時給契約)として採用し、資格、経験、能力の伸長により常勤教員に採用替を行っています。従って初任研修は非常勤として新規採用した者に実施しています。 ・本校の教員としての教え方、能力をつけさせる。	指導教員による個別指導、授業見学、教案作成、模擬授業、授業補助、他	原則1学期間(3ヵ月)					○				①学内発表会の実施 教師間の相互研鑽 ②勉強会の実施 現職教師のスキルアップ	①よりよい授業実現のための授業実践報告や、学外セミナー参加者からの報告による情報シェア。 例:「大学院進学希望者のための情報収集法」 研究発表「論文における書き手の思考を表す文末表現の使用について」 「学内サークル活動の報告」 「音声指導の方法」など ②各レベル別に指導法、問題点、疑問点などを話し合い検	①3ヵ月に1回程度、各1時間 ②隔週に1回、各2時間程度									○	○	
32	関西国際学院の教育方針 授業形態 学生の目標、教師の目標とするところ 6ヵ月毎の目標以上を教師に理解してもらう。	初級、中級、上級に分け、各々のクラスの目標とするところと、クラス運営の仕方、四技能の習得のさせ方等。特に初級の場合、当方ではオリジナル教材を使用していることから、他教材との比較並びに当方教材の特徴、ベテラン教師の授業見学、教案提出後の常勤講師による授業見学等。	日本語教師としての経験の有無に、又は授業見学後の様子によっても相違。通常1ヵ月	中・上級で教材変更毎にその使用方法と学生の学力向上の為の新たな方策の指導				○		○		基本的に現職教員の学生評価によって問題ありと認められた場合に限り。従って21年度は特になし。											○		
34	・日本語教師としての自覚・心得を再認識してもらう。 ・使用テキストの進め方(いかに効果的な授業をするか) ・学生との接し方、クラス運営、教師の毎日の作業を覚えてもらい、早く職場(現場)に慣れてもらう。	・主任、先輩教師から経験談を入れた話を聞き、後に質疑応答。 ・使用テキストの紹介。テキストの進め方を教案の例を用いて説明。 ・各自の教案にそっての実習、フィードバック ・教務ノート of 書き方、出席のとり方...等、毎日の作業の説明	1日2~3時間(採用人数によって異なる)を1週間	研修と名のつく間だけではなく、初期に間は、毎日授業の後、話を聞き、指導、アドバイスを行っている。				○		○		・よりよいクラス運営の為。 ・問題点解決の為。 ・各クラスの現状報告 ・問題点があれば教師間で話し合い、良い解決策を探る。 ・クラスのレベルとテキストの進め方をチェックする。 ・各教師、困っていること。また、他の教師にも勧めたいことを話し、お互いにアドバイスをする。	年4回(学期末)、各4時間位 毎日、授業の後、その日の報告をし合い意見の交換を行っている。随時、日本語関係の書物や使用していない問題集等にも目を通し、各自で研鑽を積むことを促している。											○	
37	より高いレベルの日本語教育の実践のため	1. 日本語教授法 2. 日本語の分析 3. 教務事務 4. 授業見学 5. 教案作成指導	3ヵ月、30時間					○		○		より高いレベルの日本語教育の実践のため	1. 授業見学 2. 勉強会	1. 対象者により異なる 2. 年4回、1回約3時間									○		
38											○												○		

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				区分							2 現職教員への研修				区分							改組有				
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず					
40	1. 新規採用者に本校の日本語教育の目的、方法を理解してもらう。 2. 新規採用者の授業が、そのコース・クラスの方針に合っているか確認し、必要なら軌道修正する。	1. 新規採用者のみのオリエンテーションを行い、学校全体の方針を説明し、各コースの授業をビデオで紹介する。 2. 担当する授業をビデオ録画し(30分)、新規採用者全員が集まって、ビデオの内容について話し合い、専任講師がコメントする(録画の前に専任は教案の指導も行う)	1. オリエンテーション。4月初めと9月に1回ずつ各3時間 2. ビデオ実習とコメント。5月～6月と11月、1回1.5時間×13回	新規採用者が担当する授業でテストを作成する場合、専任講師が指導する。				○		○		1. 読解授業の具体的なすすめ方を指導する 2. 新しい日本語能力試験について情報を提供する 3. 日常的なハンドアウト作成の効率化	1. 初級～上級の読解授業の実際のすすめ方を講義とワークショップで指導。質問のつくり方、訂正のしかたなど。 2. 日本語教育学会秋季大会の報告会として、参加した専任講師が非常勤の講師に日本語能力試験について説明する。 3. ハンドアウトを作成する時に便利なWord、Excelの使い方を指導し、実習を行う。	1. 7月～8月、3時間×3回 2. 2時間×1回 3. 3月、2時間×2回	現職者に対しても、初めて担当する科目でテストを作成するときには、専任が指導している。						○						
41	教師のレベルアップ	新EJU、JLPTとは	1日、4時間 適時。		○							教師のレベルアップ	OPIIに基づく会話	1日、4時間													
43	外国人(研修生他)を対象に、実践形式で授業を運営させる中で、外国人に対する接し方、教え方、授業の運び方など日本語教師に必要なことを考えさせる。	日本語の教授法と受講生に対する接し方。						○																			○
44	クラス内における教師の果たす役割を理解する。	専任講師の授業見学及び研修者の授業の見学	週1度、3ヵ月、3時間×4週×3ヵ月=36時間					○																			○
45	1. 初級後期授業の質的向上と学校として授業スタイルの確立。 2. 中級授業の質的向上とアプローチの多様化。	1. 専任教員が、それぞれ50分の授業を実際に行い、専任教員全員で見学し意見交換を行った。 2. 「みんなの日本語中級」第1課を、「文字・語彙指導」「文型指導」「会話指導」「読解指導」「聴解指導」の5つの角度から授業25分ずつで割り振って専任教員が研究授業を行い非常勤や他教科教員に公開した。	1. 平成21年3月23日～3月27日、15時間 2. 平成21年4月6日、3時間	1. 平成20年度から平成21年度にかけて、専任教員がすっかり入れ換り授業内容のばらつきをおさえるために行った。 2. 教科書の活用方法を様々な角度から見直すために行った。																							○

機関連番	1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有										
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																		
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず												
46	・日本語教師養成講座で学んだ基礎を固め、様々な授業に対応できる指導力を身につける。 ・担当授業だけではなく、その他の業務の方法を学ぶ。	・授業見学 ・教案作成 ・授業担当 ・担当した授業についてのフィードバック(振り返り)	・約2週間 ・約25時間										○										
47	・本校の日本語教育水準を保ち、常に向上を目指す。 ・グループでクラス授業を行う為、指導法をある程度統一させる為。	・初級、中級、上級の模擬授業と教案の提出を課し、コメントを与える。 ・随時、授業見学を行い、コメントを与える。	人によって異なるが1週間から3か月程度。																				○
48	①日本語教育に従事するに必要な心構えと学習者によりよい授業を提供できる授業力を身につける。 ②当校の教育方針、授業の進め方等を理解し納得した上で適当な生徒指導及び授業を行う。	①教務スタッフとのミーティング。主に心構えと教育方針を話し理解してもらう。 ②実際の授業を教務主任がオブザーブし、内容や進め方、生徒指導についてのフィードバックを行う。	①各人につき3か月 ②各人へのトータル時間は平均して7時間																				○
49	本学院での教授法の基本を知る為の研修。	・本学院での教授法の基本を紹介 ・授業の構成、注意点について紹介 ・授業の実習—フィードバック	1週間、1回、1.5時間																				○

機関連番	1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修							3 再任教員への研修							改組有											
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分							区分																		
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理		言語と教育	言語	その他	実施せず							
52	新規採用の教師のほとんどが初級を担当している(又は、初級から始めて中・上級に変わっていく)現状で、使用教材が他ではほとんど使われておらず、アクションなどが多いため、まず授業全体の把握、構成、くみ立て方などを全体的に理解してもらう必要がある。そのため、以下のようなことを行っている。 ①授業見学…1コマ45分の流れを理解し、教師の仕事、学生とのやりとりを知ってもらう。 ②再現授業…現職者の授業を見学し、自分が再現することで教案を立てることの重要性を理解する。 ③模擬授業…自ら教案を組み立て、1コマの授業を担当	①1コマ(45分)×4の授業を見学。事前に文法項目、指導内容を伝え、教案を作成した上で授業にのぞむ。終了後、担当教師に対するQ&Aを行い、フィードバック。 ②1コマ(45分)の授業(見学したもの)をもとに教案を作り、現職者4～5人が③学制役となり授業を行う。③の場合は自ら指導内容やドリルetcを考える。終了後、内容についてフィードバックする。(キュー出し、説明の仕方、学生への対応などを見る場合によっては、新任同志がお互い学生役をすることによって、学習者の目線で授業内容を考えられるようにしていく。 ④授業を受け持つ	1人につき ①3ヵ月～6ヵ月(経験による)5～20回 ②3ヵ月～6ヵ月(経験による)3～4回、1コマ～2コマ ③3ヵ月～6ヵ月(経験による)3～4回、1コマ～4コマ	経験者か未経験者かによって、教師としてあるべき姿、フィードバックの仕方、学校のなりたちなどの研修を行うことがある。								①ブラッシュアップのため、教授項目をよく知るため。 ②文法理解、使用教材開発による説明を受け、理解を深める。 ③教師のあるべき姿を考える。学生を取り巻く環境について理解し、教師間で考えを共有する。	①授業の流れ、アクションetcの確認。 ②講師を招き、お話を聞く。質疑応答を行う。 ③グループによる意見交換。経営側のお話を聞く。	①単独で1日ずつ2回、1回3時間 ②1日6時間 ③1日、1回3時間、年2回																
54	他校の日本語学校で長く教鞭をとっていた者を新規に採用しておりますので、中堅職員として研修を実施しております。(1)中堅職員の立場と役割を理解する。 (2)問題解決の進め方を習得する。 (3)実際の問題を取り上げて問題解決に実際に体験する。	1回目 1. 中堅職員の立場と役割 ・中堅職員に期待される役割 ・求められる能力 ・問題解決の必要性 2. 問題解決の進め方 ・問題とは ・問題解決の手段 ・問題解決を進めるコツ 3. 問題解決の実際 ・問題発見 ・課題の設定 ・解決策の策定 ・実行計画の策定 (グループ討議) ・発表、研修講師からのコメント 2回目 ・問題解決の進捗状況を確認する。 ・行き詰った状況などについてのアドバイスなどにより、よりスムーズに問題解決が進むように指	年間3回、3日に分けて実施 1回目、7時間 2回目、4時間 3回目、7時間									現職の常勤職員は前頁の研修を実施しておりますので、ここでは主任研修を記載いたします。この研修は講義、グループワークなどを通じて (1)主任としての立場と役割を理解する。 (2)主任としての後輩・部下との協働のポイントをつかみ、具体的な協働的問題解決案を作成する。 (3)お互いの能力開発に向けての傾聴と説得のポイントを習得する。 (4)主任としての後輩・部下に対するリーダーシップを発揮するポイントを把握する。	1回目 1. 主任の立場と役割 ・経営環境の変化と主任の使命 ・リーダーシップの本質と求められる能力 2. 後輩・部下との協働的問題解決 ・問題解決とは ・問題解決するための条件 ・動機づけと傾聴/説得のポイント ・協働的問題解決案に基づく相互検討 3. まとめ ・リーダーシップと発揮条件 ・後輩・部下への影響力を高めるために ・次回研修に向けて 2回目 1. 主任として支援できたことで成功した点、失敗した点について個人研究、グ	年間2回、2日に分けて実施 1回目、7時間30分 2回目、7時間																
57	無し										○	講義力向上	模擬授業を実施して、その内容を皆で評価する。	2日間(6時間)																
59	該当なし											○													○					

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有												
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分				区分																
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず			
60	(1)外国人留学生の在留手続の申請取次に係る知識取得 (2)人権に関する各種知識付与	(1)-1 入管法改定内容 -2 取次の為の内容 -3 留学生管理他 (2) 人権に関するもの	(1)約2H(1日) (2)約0.5H×3回		○					○		(1)(2)共、同一 (3)日本語学科主任としての知識、技能を磨く	(3)学生の進路・生活指導方法、カリキュラム、教材開発	(3)3日								○			
64	別紙1を参照してください。									○		別紙2を参照してください。										○			
66	研修期間は特に設けておらず、実務にあたりながら、そのときどきで指導を行っている。このような事情もあり、新規採用者は予備教育の経験者である。										○	無し											○		
69	教室において、自立して教授できる能力をつける。	・事前の教案指導 ・教室での観察、助言 ・事後の助言	6ヶ月 100時間					○				様々なレベル、技能に応じて適切な指導ができること。常に新しいことを研究する姿勢を持つこと。	上級教科書の文型勉強会 OPI勉強会 新日本語能力試験研究	月1回 2時間		○				○					
72											○												○		
73	日々の授業を円滑に行うための基礎的な技術や主要教材の基本的な扱い方を習得する。	個々の教材の内容構成を把握する。また、授業の基本的な進め方を確認し、教材の構成と授業の連関をおさえる。	1日3時間程度×3日間					○				日々の授業は問題なく進められるようになった教師に対し、授業内容・展開に厚みをもたせる。	個々の教材について、ベテラン、中堅、若手が意見を出し合う。	1日3時間程度×3日間									○		
74	・学習者のレベルやニーズに合う授業運営を行うことができるようにする。 ・数人で1つのクラスを担当する場合、教員の教え方を統一するため。	1. 担当予定の授業の教案を提出し、専任教員がチェックする。 2. 他の教員の授業を見学する。 3. 専任教員が新規採用者の実際の授業を見学後、改善点等を指導する。	1. 2. 3. 共に新規採用者により差があるが、4～20時間程度。	外部で実施している研修(凡人社等主催)への参加をすすめる。								○	特に実施していない。										○		
78	授業を円滑に進めるため	個別研修(新学期前) 担当するクラスまたはそのレベルの実際の授業を見学し、担任(専任)が授業の構成・各教材の使用目的・学生の到達目標・進行・具体的な内容を伝え、それに基づいて協議する。	3ヵ月各該当レベル1～2回(1回3～5時間)									○	教科内容の見直しと到達目標の再確認	初めて手掛けるレベルのクラスを受けもつ場合は、Iと同様。レベルごと、各教科を見直し、全体的に検討する。	毎日、気がついた事を各教員から吸い上げ、それから3ヵ月毎の講師会前に各教員から意見を聞き、最終的に講師会で具体的に詰めていく(3～5時									○	

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				区分								2 現職教員への研修				区分								改組有
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず			
79	・大勢の学習者に対する授業に慣れる ・学習者が授業に集中するよう、クラスコントロールの力を身につける	実際の勤務開始前に、トレーニングとしてクラス授業に入り、本人の考えた教案通りに授業を行う。その後研修担当者を交えてフィードバックを行い、次のトレーニングにつなげる。	10時間程度					○				無し											○		
82	①本校における日本語教育の理念 本校教員に求められる役割 ②コースの概要、主教材の特色と基本的な扱いについての理解 ③教授歴が2年未満の新任教員に対し、授業に関する指導助言を行う ④授業見学の奨励	①本校における日本語教育の理念 本校教員に求められる役割 ②コースの概要、主教材の特色と基本的な扱いについての理解 ③授業実施の1週間前に授業計画提出→アドバイス ④実施後、報告の提出を半年間続ける。半期(6ヶ月間)に2回程度授業見学を行う→フィードバック ⑤他の教師の授業をけんがくし報告書を提出	①2時間×5回(週1回) ②6ヶ月 ③随時					○		○		①中・上級の指導向上 ②初級の指導向上 ③ニューカマーの年少者への日本語教育研究 ④教材開発力向上 ⑤ビデオ教材開発	①『上級で学ぶ日本語』使い方の勉強会 ②『開け日本語』学内開発補助教材の改訂 ③年少者教育にまつわる様々な状況についての勉強会 ④テストの開発 ⑤ドキュメンタリーの教材化	①月1回1.5時間 ②1年間 ③月1回1.5時間 ④1年間 ⑤月1回4時間 2010年9月～現在 ⑥4月1回2時間 2010年4月～2010年12月							○			○	
91				新規採用者の多い時期は日本語教授法や学生指導、当機関の設備等の1日研修を行っていたが、ここ数年はなし。「2」の現職者対象の研修は新人研修も兼ねた部分もあり。							○	授業運営の見直しとレベルや各クラス間の情報共有。全体的な授業展開の把握と方法論の習得	①後期コースデザイン報告会 2008年度の反省と2009年度に向けての改善点 ②後期コースデザイン報告会 2009年度前期反省 ③後期コースデザイン報告会 2009年度の反省と2010年度に向けての改善点	①2009年3月24日(火) 10:00-16:00(5時間) ②2009年9月24日(木) 10:00-16:00(5時間) ③2010年3月24日(水) 10:00-16:00(5時間)										○	

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有											
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分				区分															
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず		
108	1 初級指導法の研修会(非常勤講師) 2 先輩教師の授業見学 3 研修授業	1 模擬授業と反省会 2 指導技術(クラス活動やQAの方法など)の建学→レポート提出 3 教務主任及び先輩教師による授業観察(観察者から新任教師へのアドバイス→レポート提出)	1 2009年9月29日 5時間 2 採用後1か月以内 約2コマ~4コマ(※1コマ50分) 3 採用後2か月以内 約2コマ~4コマ(※1コマ50分) 終了後意見交換					○				日本語教師の実践力強化	全養教主催公開講座への参加	2009年9月5日 受講時間3時間								○		
109	当校のコースの特色や学習者について理解する。当校の授業の進め方を理解し、それにそった授業準備ができるようになる。プロの教師としての自覚を促す。	当校の採用の流れ:採用試験→全体研修(合格者のみ)→中間試験→個別研修(合格者のみ)→正式採用。全体研修:当校の概要説明。授業の進め方の確認。初級指導文型課題を指示し、模擬授業実施。発表内容についての意見交換。個別研修:実際の授業を担当しながらの教壇研修。一人ずつ担当教官がつき、教案添削→模擬授業→本番→振り返りの流れを毎週繰り返す。担当教官が独りで授業を任せられると判断したら研修終了。	・上記のとおり、本研修は採用確定前に行うものであり、採用後は個別に教案提出などを指示する。 ・上記採用研修は年4回実施(採用試験の都度行う)					○		○		①実践発表会:専任(常勤)、非常勤の教師が主体的に学び合い、自己教育能力を高め、自己研修型教師として成長することを目指す。 ②専任(常勤)講師研修:関東6校、近畿2校の専任(常勤)の相互理解をはかる。他校舎や他部門の情報を共有し、専任講師として広い視野を持ち、新たな視点で自らの業務への振り返りを行う。	①☆外部講師(館岡洋子先生:早稲田大学大学院教授)によるレクチャーと有志による発表 ・発表内容:日々の業務・授業を通して、テーマ発見→実践→振り返り→考察の経緯・結論を発表。 ・発表例:ピアラーニングへの取り組み、生活者のための会話タスク。 ②1部:各校舎からの現状報告、問題提起 2部:特別プロジェクトチームからの報告(教材開発・EPA介護士受入・試験対策) 3部:ワークショップ「学習者の多様化ー日本語学校として	①1日4時間(平成22年度から年2回実施) ②1日8時間	上記②は平成22年3月実施したものです。						○		○	

機関連番	1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修							改組有											
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																		
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず												
110	授業担当をするための最低限の知識、技術、心構え等について補完し、現場即戦力の人材を育成することを目的とする。	学習者指導の基礎的知識、態度、心構え 授業の流れとカリキュラム全体の把握 教案作成、模擬授業、実技指導	授業開始直前の1～3日間。新任者の人数などにより可変 2010年10月期の例:9:30～12:30(3時間)×3日間 参加者(新規採用)5名 2010年11月期の例:9:30～12:30(3時間)×1日間 参加者(新規採用)1名	上記研修参加の初任者は無給。交通費は支給。指導講師は有給。 初任月期(3か月)に2回、教務主任が授業観察に入り、指導に当たる。また、非常勤講師を含め、相互研鑽の意識が高いため、互いの授業を見学し、授業の質的向上に努めている。																			
112	①本校では、通常、未経験新規教師には単独でクラス授業を始める前に、授業アシスタントとして仮採用し、専任教師の授業見学、教案作成、教務補助的作業などを通して、本校のシステム、カリキュラム・教授法を学んでもらう研修プログラムを受け、その後、本採用とするかどうか決定する。 ②平成21年度の新規採用者は1名で、本校採用前に経験年数が8年あったため、研修内容は新規採用者とは別のプログラムであった。平成21年度採用者の他校で経験した教授法を知り、本校でのカリキュラム、教授法・システムなどを知らせてもらうことを主要研修目的とする。	①採用を決定する前、「日本語教育」についての800字程度のレポートの提出、一定の経験者には進行中の主教材の授業50分の教案作成・実技授業を行い専任教師が教案チェックと授業見学を行って採用を決定する。21年度の採用者は、採用後、すぐに授業を担当してもらったが、クラス担任の専任教師が必要な期間の教案提出による継続的な研修を行った。	①大学での日本語副専攻の新卒者など授業経験のない場合は、6ヶ月、通常は1～3ヶ月程度、週1～5日の「研修期間」を設けている。教案作成、教務補助と1コマ(90分)の授業見学、担当専任教員による指導(50分～)、学校の業務時間内の教務補助(本人の)																				
119	経験のない教員に、当校のやり方を知り、当校教員として教壇に立つてもらうこと。	・授業見学 ・教案提出と主任教員からの教案指導 ・主任教員による授業見学と指導	採用後1～2ヶ月																				

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有												
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																				
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず														
121	①採用直後から初日の授業までの間に、当校のシステム、教え方等を知ってもらう ②現場で通用するレベル、当校で求めるレベルの授業が行えるようになる。 ③全てのレベルの基礎となる初級文法、初級指導法をきちんと身につける。	①・当校のシステムについて。 ・カリキュラム全般。 ・担当する教材を使って教え方の実践指導。 ②・担当する授業の教案を提出してもらい専任教師が添削、指導をする。 ・指導した教案に基づいた授業のビデオを撮りフィードバック。 ③初級レベルの教え方を学びつつ教師の振るまい、姿勢についても学んでもらう。 ・担当の課を決め教案作成→模擬授業→フィードバックを実施。	①3日程度 12時間 ②3ヶ月～6ヶ月 ③3ヶ月 20時間																						
122	授業を行えるようにするため	採用後、教案のチェックをする→模擬授業	採用後、約1ヶ月間ほぼ毎日/約40時間																						
123	・日本語講師の自覚 ・講師力の強化 ・多様化する学生への対応能力の育成	授業見学 A.研修者が希望する講師及び教務が指名する講師の授業 B.上司(副学院長・教務主任等)が研修者の授業見学	4ヶ月～6ヶ月	進学指導研究会 中国語、韓国語講座																					

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修	2 現職教員への研修											改組有										
		研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																	
				社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず		
124	①日本語学校の概要及び本校の教育について周知してもらう。 ②授業をする前に、自信をつけ学生の様子を把握してもらう。 ③今後問題意識を持ちつつ授業に臨んでもらう。	①〈日本で高等教育を受けるために〉日本語運用能力＋複眼的に物事を捕える力(批判的読み) *学生の目標は何か?(言葉は道具) *教える立場であるあなたの目標は何か? 〈日本社会に受け入れられるように〉 *週一回の掃除、挨拶、正しい言葉づかい、時間厳守など。 例:学生は、どんな時謝るべきか? ②1回目:読解・文法(初級から上級までの進め方)・授業見学 2回目:聴解・会話、討論(初級から上級までの進め方)・授業見学 3回目:作文、小論文(初級から上級までの進め方)・授業見学	①2009年度後期新人研修 8月25日(火)4時間 ②9月随時(計4回、一回4時間) ③9月以降(2010年3月春休み中に発表)									初級の文法解説書の問題点を探る	2009年10月～2010年3月まで各自初級を教える際の文法解説書の問題点(用語の混乱や問題集との整合性など)もチェックしておき、2010年3月に、学校内での会議を持ち統一を計る。	期間:6カ月、時間数:各自準備の時間＋会議3時間									
127	なし									○	なし											○	
130	・日本語教師としてのあり方マスターする ・問題解決の仕方 ・学生の指導方法の把握	・授業の準備 ・授業の進め方 ・授業のまとめ、テスト ・学生の評価 ・学生の生活・進路等の指導法 ・教師間の連絡・チームワーク・ミーティング ・報告書の書き方	6カ月間																			○	
135	新人講師の技術力向上のため	ベテラン教師による教案補講(マンツーマン指導)。新人教師が教える全ての文法項目に対して個別に行う。	2009年4月～2010年3月(時間は講師のレベルによって異なる。									現職講師の技術力向上のため	・ベテラン教師主催の勉強会/年3回 ・外部講師による講演会/英語教育から学ぶ/講師:田尻悟郎氏	全て1日4時間程度								○	
136	教師の教え方の指導	模擬授業を2回行い、授業内容について参加講師との意見交換	70分×2回																			○	
137	無し											○	学生の日本語運用能力向上	・具体的な教え方 ・聴解教材の使い方	週1回/1時間								○

機関連番	1 新規採用者への研修				区分							2 現職教員への研修				区分							改組有				
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず					
139	・日本語教育機関におけるA.C.C.の位置、使命を理解し、その中でどうふるまうのかを知る。 ・「自己研修ができる教師とは何か」を知る	・教育目的の理解、留学生受け入れ実務の基礎知識 ・学習の創造・促進・支援・評価のための知識 ・問題発見・解決能力・その他全般の実践力養成	33時間＋α	研修内で出たテーマについての研究と発表						○		常勤・非常勤全ての教師が意志を同じくし、協力して教育にあたる体勢の継続	毎回テーマを決め、担当者が準備、参加者全員でディスカッション等行なう	毎月1回／1.5時間	個別研修有							○					
141	新規採用者に対して授業がスムーズに進められるようするため	教案の事前提出、授業後のフィードバック	個別に異なる																			○					
149	OJTを中心に必要に応じて行っている											①常勤講師相互の授業見学(校内)(9人) ②凡人社主催日本															
151	教室での指導がスムーズに始められるよう、授業のくみため等について研修を行った。	・授業見学 ・教案提出、添削など	各教員により異なる(1回の指導は30分～1時間)									教員のレベルアップのため	新しい日本語能力試験問題の分析・作成・検討	1日(4時間の会議。問題は各自で事前に作成。)	外部研修に参加	○											
153	①日本語科新人研修 日本語科配属新入教員に対する研修で4月の学期開始前に行い、日本語科の概要、及び日本語教育概論などを学ぶ ②日本語教育関係スタッフ研修 年に2回、教員全員参加で行う研修会をやっている。担当者を決めテーマや内容について検討してもらい3月の卒業式後と8月の夏休みの間に行っている。今年度は「異文化理解」をテーマに取り上げ、グループワークで「異文化理解」について意見交換し、理解を深めた。	①日本語科新人研修 天理教語学院及び日本語科業務全般に関する説明。日本語科概要、日本語教育概論、日本語教育の授業などについての講義。 ②日本語教育関係スタッフ研修 ・事前アンケートの実施(文化・習慣の違いに関する内容のもの) ・研修に入る前のアイズブレイク ・「異文化適応」に関する発表(パワーポイントを利用して) ・グループワーク(4つのグループに分かれて実際にあった異文化衝突の例について話し合う) ・発表(講堂に集まり、各グループの代表が話し合った内容を発表する)	①日本語科新人研修 約6時間 ②日本語教育関係スタッフ研修 約4時間	・国際交流基金関西センターの日本語教育研修会・公開講座への参加								①海外拠点への派遣 海外拠点(パリ、ニューヨーク、シンガポール、香港)の日本語学校へ専任講師として派遣し様々な日本語教育の経験を積み、日本語教師としての技量を磨くことを目的として派遣。 ②パリ天理日仏文化協会日本語教師養成講座派遣 天理教語学院関係機関であるパリ天理日仏文化協会にて毎年3月に行われる日本語教師養成講座に講師として出向し、その準備、授業を通して自らも日本語教師としての自己研鑽を積む。 ③天理大学日本語教員養成課程教育実習担当 天理大学で「日本語教員養成課程」を履	①海外拠点への派遣 天理教語学院日本語科で2年勤めた後、海外拠点にある日本語学校で授業を担当し主体的にクラスの運営、授業の展開など日本語教師としての技量を磨きかける。 ②パリ天理日仏文化協会日本語教師養成講座派遣 天理教語学院での勤務、及び海外拠点日本語学校での経験を通し、後進の育成に携わりながら、熟達した日本語教師としての技量を身につける。 ③天理大学日本語教員養成課程教育実習担当 毎年6月に受け入れている天理大学日本語教員養成課程の大学生に対し、担当クラスで授業見	①通常2年の派遣 ②毎年3月の約3週間 ③毎年6月の約1週間	・日本語教育能力検定試験の受験 ・国際交流基金関西センターの日本語教育研修会・公開講座への参加											○	

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				区分								2 現職教員への研修				区分								改組有					
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず								
158	当校の教務目的である『『学生が自ら発見し、自ら思考し、自ら説明する』教育を通じ、高等教育機関及び産業界に数多く人材を輩出する』を全てのスタッフが共有し、全ての学生の成長を効率的に促進するため。	1.模擬授業 授業に入る前、ベテラン教師が教案を見て、訂正を入れながら、最終的に実際のクラスや、希望者を集めたクラスで模擬授業を行う。教案作成ー訂正ー授業ーフィードバックを一貫して行い、新人教員が教壇に立てるように指導する。これは新人教員必修となる。 2.講師会 TLSに在籍する全講師を対象に2ヶ月に1度研修を開催している。今年度行われた研修は次の通りである。 ①教師の自己成長の重要性:教師の自己成長モデルと問題解決法に関するワークショップ形式で行った。 ②コースデザイン:短期コースをモデル	1.3ヶ月間、5~6回程度 2.2ヶ月に1回									当校の教務目的である『『学生が自ら発見し、自ら思考し、自ら説明する』教育を通じ、高等教育機関及び産業界に数多く人材を輩出する』を全てのスタッフが共有し、全ての学生の成長を効率的に促進するため。	1.研究授業 働き出してしばらくたった教員が、自分のブラッシュアップのために研究授業を行い、他の教員に意見を聞く。東洋言語学院は学生の成長のために、講師が大切な存在であると認識している。教員一人ひとりが切磋琢磨していくために、お互いの授業を見学し、その後、意見交換会を開いて活発な意見交換を行う。意見交換会は決してあら捜しではなく、批評をする場でもなく、お互いが成長していく場だと捉えている。 2.『【1】新規採用者に対する研修の「研修内容の項目2『講師会』に同じ。』	1.3ヶ月に6~7回程度 2.2ヶ月に1回																
162	新採者の指導法の充実をめざす	1.先輩教師の授業参観と指導 2.研究授業と授業研究	1.2.とも4月~5月中旬に各3時間実施									相互の指導力の向上をめざす	研究授業と授業研究の実施	月1回/1人ずつ実施																
165	・授業の進め方、学生への接し方を学ぶ。(常勤・非常勤) ・進路指導のやり方を学ぶ。(常勤) ・本校の基本カリキュラムに沿った授業計画が建てられるようになる。(常勤)	・授業見学(常勤・非常勤) ・模擬授業(常勤) ・「みんなのほんご」を使った初級研修(常勤)	2週間~4週間(非常勤) 1ヶ月~半年(常勤)									・授業のスキル向上(常勤・非常勤) ・進路指導のやり方を学ぶ(常勤)	・授業見学(常勤・非常勤) ・読解、聴解、作文など1つの授業を取り上げて教材を研究したりやり方を検討したりする。お互いに模擬授業を行うこともある。(常勤)(毎年テーマが変わる)	4週間/年																
166	①本校の教育理念に合った授業が出来、各留学生の進路に合わせた指導が出来る教員になるよう研修を行った。 ②教職員の学生指導の均一性と向上を目的とした研修を行った。	①校長、日本語学科長により本校理念と具体的な教育内容について研修を行った。 ②教員毎の模擬授業を行い、改善点(評価を行い)を出し、個々に指導を行った。 ③講師会に出席して、IGLの教育内容を理解していただいた。	各教員毎に、数時間実施した。									①個々の教職員の教育指導レベルを上げるよう教職員内での研修を行った。 ②学生指導の均一性と向上を目的とする。	①定期的に講師会を実施して、その中で研修も行う。 ②個々の教職員の授業を参観して、改善点を指導していく。	月1回の講師会により実施(2時間程度)																

機関連番	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											改組有		
	I 【1】				区分								区分												
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず			
167	1. 新任講師研修: 本校のシステム全体を把握し、業務内容を理解してもらうため 2. 授業見学とミーティング: 授業の進め方の確認と授業技術の向上のため	1. カリキュラム・スケジュール(週・学期・年間)等の説明、業務内容の説明、スタッフ・校舎等紹介 2. 専任が授業見学をし、授業の進め方についての意見交換をする。経験の浅い教師については毎回教案を事前に提出してもらい必要であればアドバイスを	1. 2.5時間 2. 学期に1回(教案提出は1学期間)									コンピューターやプロジェクターなど新規導入機器を授業でスムーズに使いこなすため	プロジェクター使用講習会	1時間											
169	新規着任研修 当校で授業担当をするにあたって、組織と教育方針を理解していただき、皆が同じ感覚で教育に取り組めるよう考え方を統一している。又、授業の進め方の基本スタイルを覚えてもらう為、教え方の統一のため指導を行う。	日本語教育の現状と課題。日本語学校とは?・学習者の背景・留学生指導の心得・入管法・当校の組織と校則・事務的ルール・年間計画・授業の進め方・一日の流れ・技能別指導法・機器の使い方	3日間(12時間以上)		○							A.教育に対する考え方の統一 B.学校の状況についての理解 C.個別の授業についてのアドバイス	A.教育というものはどうあるべきか。授業に臨む姿勢はどうあるべきかというレクチャー。 B.学校の入学・退学状況と行事等の目的説明 C.授業を定期的にチェックし、教務主任と一対一で振りかえる	A.3ヶ月に1度120分実施(計8時間) B.3ヶ月に1度30分実施(計2時間) C.個別の教師に対するもので21年度トータルで、のべ80人/80時間							○				
170	①新規採用者(非常勤講師)の教授能力向上のため ②新規採用者(非常勤講師)と現職講師との交流のため	①教授能力向上のための教案検討会 ②個別教案指導	①研修内容①については、新規採用者(非常勤講師)の勤務開始2か月前から勉強会に参加してもらった。週1回90分から120分程度。参加者は新規採用者を含め8名程度であった。 ②研修内容②については、勤務開始後、毎週1回60分程度の教案指導を行っている。									①教授能力向上のため ②教師間の交流とお互いの力量を知るため	①一人が講師役となり、使用教材の注意点や抑えるべきポイント等を報告する。また、それぞれの失敗談や体験談を共有していく。 ②グループワーク形式での教案作成と発表を行っている。実際のクラスを想定し、1コマ90分の授業をどのように進めるか、3人程度のグループで話し合う。	①研修内容①については、月に1回90分程度。以前は1週間に1回90分程度行っていたが、近年は1か月に1回程度に減少した。 ②研修内容②については、月に1回土曜日の午後行っている。時間は1回あたり3時間程度である。											○

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有												
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分				区分																
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず			
172	①担当授業についての教案指導 新規採用者が教壇に立つ場合でも、学習者に不利益とならないよう、授業内容、指導法などを確認する。 ②出入国管理及び難民認定法に関する勉強会 留学生及び在日外国人学習者が日本で生活する上でのアドバイスを養う。	①当校の教務主任がマンツーマンの教案指導及び学生管理のトレーニングを施す。教案に問題があった場合は、完成まで修正を繰り返して行う。 ②当校の生活指導担当者が、留学生及び在日外国人の在留管理に関する講義を施す。具体的に事例等をあげ、対応できる能力を養う。	①採用日より3ヶ月間(ほぼ毎日、必要時間数行う) ②6ヶ月ごと(1回2時間程度)	月1回の全員会議にて、各クラスの状態報告を行う。 必要に応じたアドバイスが主任教員と、生活指導担当者より施される。	○			○				①出入国管理及び難民認定法に関する勉強会 留学生及び在日外国人学習者が日本で生活する上でのアドバイスを養うため、出入国管理に於ける最新情報を確認する。 ②主任職員研修 主任職員に対し、学内指導の統一を図るため、俊樹と情報を共有する。	①当校の生活指導担当者とのコミュニケーションを円滑にするため、事例報告等による最新の情報を共有する。 ②部下に対する指導、問題解決方法の確認、日本語教育の最新情報の共有など	①6月ごと(1回2時間程度) ②必要に応じた時間と回数とその都度決定(2時間～2日程度/1回)	月1回の全員会議にて、各クラス及び学内の環境を確認し、情報の共有と問題解決にあたる。									○	
173	・授業をはじめとする教師の仕事を知りていく過程における様々な援助 ・疑問点・不安の解消・軽減 ・問題解決とその方法に関する学習 ・授業の進め方の徹底指導 ・初級教材の徹底指導 ・新任教師のスキルアップ	①チューター制:新人には世話役の教師をつけ、教案をみてもらったり授業をはじめとする様々な業務の相談にのってもらう ②勉強会A:新人の様子をみながら授業などにおける疑問点の解消、問題解決、知識の確認などを行って ③「みんなの日本語I・II」を使用し各課文型の導入及びドリルの手順 ④初級文法に於ける問題点のピックアップ及び解決	①チューターをつけるのは原則的に最初の3ヶ月 ②勉強会Aは月に一度程度 ③④は週1回(2時間)×3ヶ月					○		○		・日本語教育に関する知識の確認・向上及び問題点の検討 ・進路指導に関する知識の学習 ・日本語教育能力試験への対応	勉強会 ①新しい日本語能力試験について ②進路指導について ③日本語教育能力試験について	①～③平均して1～2ヶ月に1回2時間程度		○									

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有													
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																					
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず															
175	1.当校での授業の進め方、教材の使い方などに早く慣れてもらうため。 2.なかなか見えにくい個別の授業を可視化するため。 3.日本語教育に関する知識があること、それを学習者に伝えることは同じではないと認識してもらうため。	①採用後、実際の授業開始以前(可能であれば週2回程度)、本校の常勤スタッフによる授業を見学する。その際その授業の教案を作成し主任教員に提出。自信の作った授業の実際とを照らし合わせる。	①採用後、授業開始前の準備期間(約2か月程度)…4～8h/1w ②授業を担当しながらの研修期間(3～6か月)…4～8h/1w + 任意での授業見学	上記①はあくまでも任意ではあるが、未経験者の場合には採用の条件ともなる。この間は交通費のみ支給																						
176	新人、ベテランに限らず自己研鑽は不可欠であると考え、すべての講師がその機会を活かし、授業の振り返り、専門分野における知識の確認、課題の発見、取り組みなどを通じ、より質の高い教育を目指す。 ※本校では新規採用者と在職者の研修の区別なし	すべての講師が各々の研修テーマを持って研修を進め、グループに分かれて毎月1回報告会を行うという形で進めている。テーマについては特に制限を設けていないため、お仕着せでなく各自が取り組むべきだと考えた課題に取り組んでいる。今年度テーマの一例は、	報告会は毎月1回、約1時間半という限られた時間であるために、実質的にすべてのメンバーが毎日報告することは難しく、3カ月に1回程度となる。また、1つのテーマに数年にわたって取り組む者もあれば、毎年新しいテーマに取り組む者もある。いずれにして	毎月の報告会に参加した場合は「研修費」が支給される。学校としては研修の機会と、その必要性についての認識を与えることに意義があると考え、実施してきた。しかし、質については各自に任されており、その差異をどう扱うべきか、現在検討中である。																						

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有											
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																			
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず													
177	研修会の形式での研修は実施していない。 教員の水準向上のため、以下を行っている。 (新任教員) ・本校の理念、教育目標について理解を深めるため採用時、個別に校長が詳細に説明。 ・授業担当以前の授業見学と担当教員による指導 ・レベル担当教員(コーディネーター)が日常的に助言、指導 ・未経験者を採用した場合、教案作成・テスト作成等を教務主任もしくはレベル担当コーディネーターの指導で行ったのち、教壇での実習を行う。(約3か月間)ただし、最近																							
180				年2回(春学期開始時、秋学期開始期)講師全員が集まり、問題点他話し合いを行っている。																				
181	新規採用者が当校の授業のやり方に慣れる																							
184	無し	無し	無し																					

機関連番	I 【1】 1 新規採用者への研修				2 現職教員への研修								改組有											
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	区分																			
					社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず													
185	・各教師の更なるスキルアップ ・授業内容、クラス運営に見直し ・情報の共有、報告会 ・専任講師、非常勤講師の顔合せ ・現状の課題についての提案	・レベル別(初・中・上級)の授業運営の概要 ・メインテキスト・副教材の効果的な使い方 ・自習の定着方法について ・入学から卒業までのカリキュラム・ピザ更新等の流れ ・進路指導について ・Q&A、ケーススタディ	・教師全体でのミーティング&研習…10時間 ・初任者研習…10～20時間	教師間での授業見学、フィードバック、TAと模擬授業				○		○														
188											○												○	
192	授業の質を落とさないために、教師として基本的な教授法などを身に付けてもらうこと。	・初級・中級・上級の各レベルにおける授業の進め方、留意点、テキストの説明などを行った。 ・授業を担当する前に該当するレベル、その前後のレベルの授業見学を教務課の教師とともにし、意見交換をした。その過程で、何が重要かを体得してもらった。	3か月、15～20時間					○				・まんねり化を防ぎ、日本語教師として常に自己修練をするきっかけ作りをすること。 ・共通する問題を解決すること。	・担当教師がテーマを設定し、講義をした。 ・今年度は特に中級レベルの教授における問題点を話しあった。 ・他校の取り組みを紹介した。	年間を通して。20時間程度										
計			計		6	0	0	54	1	43	14			計	6	0	0	42	1	31	18	0		

機関連番	【2】採用			2 退職者					19年度					20年度					21年度					3 理由					19年度					20年度					21年度											
	19年度	20年度	21年度	①1年未満	②1～3年	③3～5年	④5～10年	⑤10年以上	①1年未満	②1～3年	③3～5年	④5～10年	⑤10年以上	①1年未満	②1～3年	③3～5年	④5～10年	⑤10年以上	①1年未満	②1～3年	③3～5年	④5～10年	⑤10年以上	①他の日本語教育機関	②別の職業に転職	③大学・大学院への進学	④その他	⑤不明	①他の日本語教育機関	②別の職業に転職	③大学・大学院への進学	④その他	⑤不明	①他の日本語教育機関	②別の職業に転職	③大学・大学院への進学	④その他	⑤不明												
1	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
2	1	0	2	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
3	0	0	1	000	000	000	011	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	011	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
4	2	3	0	100	100	010	020	000	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	230	000	000	000	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
5	2	1	0	000	000	000	000	001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
7	1	0	1	000	001	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
12	1	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
13	6	5	5	000	100	000	000	000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	100	000	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
18	0	1	2	000	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	010	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
21	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
22	0	0	1	000	000	011	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	001	000	000	010	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
26	0	0	1	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
31	0	6	2	010	001	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	010	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
32	0	2	0	000	000	001	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	001	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
34	4	9	2	000	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	010	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

機関 連番	機関名	【2】 1 採用			2 退職 者					19年度 2 退職 者					20年度 2 退職 者					21年度 2 退職 者					3 理由					19年度 3 理由					20年度 3 理由					21年度 3 理由									
		19年度	20年度	21年度	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明										
151	愛知国際学院	3	2	3	110	010	000	010	010	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	020	000	000	120	000	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0				
153	天理教語学院 日本語課	6	2	1	000	100	211	000	000	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	000	010	000	201	000	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
158	東洋言語学院	1	1		000	110	001	000	000	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	010	000	000	000	101	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
162	九州日本語学 校	1		1	000	001	000	100	000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	000	001	000	100	000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
165	関西語言学院	3	4	3	000	500	000	000	000	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	000	000	300	000	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
166	IGL健康福祉 専門学校			3																																													
167	(学)深堀学園 外語ビジネス 専門学校																																																
169	東京三立学院		1	3	000	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	000	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
170	アジア日本語 学院	1			000	000	000	001	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	001	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
172	東京中央日本 語学院	3	3	2	000	122	000	000	000	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	110	010	000	002	000	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
173	国書日本語学 校	2	5		010	111	100	110	000	0	1	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	100	210	010	011	000	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0		
175	ヨシダ日本語 学院																																																
176	関西外語専門 学校	1	1	1																				100	000	000	010	000	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
177	京都文化日本 語学校		2	4	000	000	122	111	434	0	0	1	1	4	0	0	2	1	3	0	0	2	1	4	210	010	000	000	000	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
180	学朋日本語学 校																																																
181	東京国際文化 教育学院	1	1	1	000	100	000	000	000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	100	000	000	000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

機関 連番	機関名	【2】 1 採用			2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					19年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					20年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					21年度 2 退職者 ①1年未満 ②1~3年 ③3~5年 ④5~10年 ⑤10年以上					3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					19年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					20年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明					21年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明				
		19年度	20年度	21年度	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤					
184	日東国際学院			3	001	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
185	松戸国際学院																																											
188	武蔵浦和日本語学院		3		000	020	000	000	000	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
192	エリート日本語学校	3	4																																									
		86	116	94						4	17	13	4	12	5	17	16	11	11	4	14	15	6	11						14	8	2	12	2	12	12	1	23	1	10	3	2	23	1
		296								50					60					50									38						49					39				

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査の結果について(地域)

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修												
	区分											区分												
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず		
6	日本語ボランティアの活動内容について活動前に知ってもらう。	・日本語ボランティア養成講座 ・外部の講師を招き、実践形式の授業を行ってもらったり、心構えについての話をきく。	年5回。1回1.5時間									スキルアップ	・日本語ボランティア養成講座 ・外部の講師を招き、実践形式の授業を行ってもらったり、心構えについての話をきく。	年5回。1回1.5時間										
8	新規日本語教育ボランティア養成講座	NPO法人実用日本語教育推進協会専属講師によるボランティアとしての心構えや、教え方等の講座。	5月17日～6月14日、9月27日～11月1日、7月22日～8月19日に各2時間×5回	講座の後、オリエンテーションを行う(5回程度)。								月・木、各クラスの講師のブラッシュアップ、年2回	他機関より日本語講師を招き、教材の使い方、日頃の疑問点等について研修を行う。	年2回(各2時間程度)	月クラス、パワーアップ(在籍講師による研修会)									
9											○												○	
10	日本語初級に対する指導法を学ぶ	日本語教科書「みんなの日本語初級I」を使い、指導法を学ぶ。	H19、9月15日～12月15日、13回、30時間									日本語指導法のレベルアップをはかる。	日本語教科書「みんなの日本語初級II」を使い、指導法を学ぶ。	2009年12月5日～12月26日、4回、8時間										
11												○	日本語ボランティアの養成。日本語教室へのボランティアとして参加、協力。	生活者としての外国人のための日本語。日本語指導者養成講座。「みんなの日本語初級I II」の教え方	平成21年9月～平成22年2月、20日、40時間									
14												○	当会でボランティアとして日本語を教えている方達のスキルアップのため	・「助詞を主にした文法について」: 「は」「が」の違いなど。 ・「みんなの日本語」の使い方と教え方: 当該のテキストブックの狙いと実践的な使い方。 ・「実践的な教案の作り方」: 発話を効果的に促すシチュエーション提示について。	週1回、全3回。初回のみ2時間半。									

機関 連番	I 【1】											2 現職教員への研修													
	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修													
	区分											区分													
研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず				
15	中区は横浜市のなかで、最も外国人登録者が多く、9人に1人は外国人という現状である。なか区民活動センターに寄せられる相談のなかでも、日本語を教えてくれるところを案内してほしいという要望が多かった。よって、すでに各団体が日本語教室を展開していたが、なか区民活動センターの事業として「日本語ひろば」を開催するに至った。平成19年10月に初回の養成講座を実施したが、その後、ボランティアの減少と学習者の増加に伴い平成21年度に第3回目の養成講座を実施した。	すでに日本語教室を開催しているNPO法人が講師となり、市販のテキストを使用し、「日本語ボランティアとは」、「日本語初級の教え方」について講義形式で行った。また、日本語教室が開催されている現場を見学した。今回の養成講座は「夜の部」の需要が多いため、夜間に活動可能なボランティアを募集したいと考えた。そのため、講座開催時間帯を18:00~20:00に設定した。	6月から7月にかけて全6回開催。1月に2時間の講座、計12時間。	参加費は無料。ただし、テキスト購入費用として2,500円+税が必要となった。この費用は参加者負担。	○																		○		
16										○	日本語の初期指導ができる人材の開発と育成及び区内の日本語ボランティアグループの連携	・教室活動の手法について ・対話力のアップ ・区内日本語ボランティア教室の紹介 ・実践的教室活動や教材の紹介等	平成21年9月10日(木)~10月22日(木)、全6回。2時間×6=12時間。	対照：1年以上のボランティア経験者、若しくは日本語学校の養成講座(420時間)終了。参加費：6,000円	○										○
17	地域で暮らす外国籍市民への日本語指導法や、日本語指導ボランティアの様々な活動について学ぶ。				○						地域で暮らす外国籍市民へ日本語を指導する。ボランティアのステップアップ。												○		

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修												
	区分											区分												
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず		
19	①初級コース:地域で活躍する日本語ボランティアを対象とすることにより、ボランティアの活動を支援するとともに、日本語ボランティアの養成を行う。 ②中級コース:平成21年度より、中級講座を開設し、活躍中のボランティアのレベルアップ/ブラッシュアップを行う。	①ボランティア日本語教室とは/文法/生活の中の漢字/生教材の使い方/リソース型生活/日本語の活用 ②年少者への教授法/授業の組み立て方/教材作り	①・昼コース:11月7日~12月1日(5回)、14:00~16:30 ・夜コース:11月10日~11月24日(3回)、18:30~20:30 ②3月14日(1回)・10:30~16:30		○							日本語ボランティアの質の向上	文法、教え方、教材の使い方のレクチャー	数ヶ月に1回										
20				ボランティア団体のため、資格は問わずオリエンテーションのみで採用しています。ボランティア希望者のための研修は行っていません。								①日本語文法事項の習得 ②テキスト各課の教授法の習得 ③「対話活動」の習得	①形式名詞の「こと」と「の」について。「みんなの日本語」26課の教え方 ②「みんなの日本語中級I」の使い方 ③吉田聖子氏による全10回講座。「対話活動を中心に」	①4月から6月までは、月1回各2時間の勉強会です。 ②10月からは外部講師を招いて各2時間全10回、20時間の研修を継続中。										
23											○													○

機関 連番	I 【1】											2 現職教員への研修													
	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修													
	区分				区分							区分				区分									
研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず				
24	町村主催の日本語教室の日本語指導ボランティア養成のための研修だが、8年くらい前から、学校へ日本語指導者が配置されるようになり、学習会に日本語教師の依頼が来るようになった。たとえ地域の日本語教室でも、指導者には日本語の基礎知識は持ってほしいと開始した研修なので、教授法の基礎を持っている指導者が多い。日本語教室で実践し、教室の親たちの実態を知っている日本語指導者は、学校での子供たちへの対応も含め、学校教師への理解促進にも大きな成果を上げている。実績評価があるため、毎年、市の教育委員会から講師派遣依頼が来る。市町村主催の日本語教室指導者育成と、現職日本語教師へ指導と課題解決の為の研修としている。今後、地域の日本語指導者の育成やレベル向上は、大きな課題となると思うが、地域の外国籍住民の実態(親の現	・日本語教育の基礎知識 日本語の音声:母音・子音、リズム、半母音、アクセント、イントネーション 日本語の文法:動詞、形容詞、助詞 日本語の文字/表記:ひらがなの問題点 ・社会言語学 ・文法上のコミュニケーション行動	1年間(毎月2回(1回2時間)、年間24回(48時間))。実践研修日12回(地域日本語教室での実践) ・教授法、心理学研修日12回(日曜日)	教授法は必須科目(指導法は統一する) 日本語は誰にでも教えられらると思う概念を捨ててもらう。 外国籍住民の学ぶ意欲や能力を評価する日本人を増やしたい。							日本語能力試験を受ける受講生へも対応できる日本語指導者の育成(教授法) 外国籍住民の国際法や立場での基礎知識 学校で進級して行く子供たちへの学習言語の段階的指導方法 教科指導に移行する時期 漢字圏と非漢字圏の子供への漢字指導の違い 日本語指導と国語の教科書の指導要項の交わり…学年と指導項目	主に子供の日本語指導者への研修が多いので、学校内で困っている点に重点を置き指導している。 初期の文字指導(表記)が徹底していないため学習言語に結び付かない場合が多い。 子供への対応は、心理学を学ぶ研修が必要。 学校教育現場に必要とされる本語指導者とは…。		現職教員には、現実に抱える問題を一緒に考えてあげられる研修が必要。 100の事例があれば100の解決策がある。 研修で何を求めたいのか…現職教員ゆえの悩みがそれぞれある。											
25										○												○			
27	電気通信大学池田教授を中心に、学習支援中の疑問解消など教授法の向上を目指す。	「みんなの日本語I・II」を使った模擬授業、教本の使い方、教授法など	2009年10月～2010年3月、第3木曜日(全6回) 10月15日～3月18日 時間:14:00～16:00	場所:電気通信大学P棟学習室 講師:電気通信大学国際交流推進センター 池田 裕 教授 参加費:全6回1,500円 定員:25名							日本語ボランティア入門講座で足りなかったことやレッスン中に感じた力不足などを解消する。	Aコース:初級 ・「みんなの日本語I」を使った初級問題の作り方、「初級文法」助詞 Bコース:中・上級 ・「みんなの日本語中級」の進め方、他「中・上級文法」等	Aコース 3月8日(月)・3月15日(月) 午後1時30分～4時 Aコース 3月19日(金)・3月26日(金) 午後1時30分～4時	定員:各コース共20名 場所:電気通信大学P棟2階218教室 講師:電気通信大学国際交流センター 准教授 笠原ゆう子 費用:各コース¥700(資料代含む)											
28	①指導者の指導力の向上 ②学習(指導)内容の最適化	①オリジナルテキスト、マニュアルの使い方 ②市販教材を使った指導方法 ③子どもに合わせた教材の選び方、使い方	4月～3月、50時間								①教師の指導力の向上 ②学習内容の最適化	①オリジナルテキスト、マニュアルの使い方 ②市販教材を使った指導方法 ③子どもに合わせた教材の選び方、使い方	4月～3月、50時間												

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修													
	区分											区分													
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず			
29	教師の指導力の向上	①学習者のレベルに合わせた教材選び、使い方、及びカリキュラム作り ②指導内容の具体的な検討	4月～3月の間で10時間				○																○		
30											○	①新しいボランティア講師育成のため ②現在、ボランティア教師をしている人達のレベルアップのため	日本語教授法初級の教え方	2010年8月17日～9月14日、全5回、15時間					○						
33	当財団で日本語講師に新規で登録した方を対象に、日本語の教え方の講座	・日本語教育、特に初級教育の概略 ・新案の作り方 ・授業の進め方など	4回(各3時間)							○		日本語講師ボランティアのスキルアップを目的とする。	コミュニケーション能力を伸ばすのは。	1回(3時間)							○				
35	教授力の向上	・授業見学 ・教案チェック ・チューターによる授業へのアドバイス	6時間				○																○		
36											○	ボランティアで教えていただいている日本語教師の方々のスキルアップと教え方に関する問題点等を少しでも解決するため	第1回目:動詞の意向形、意志の強さの違いについて 第2回目:「=てくる」「=ていく」を考えよう 第3回目:初級教授の留意点について意見交換、日本語検定実践問題(文章題)	1. 平成22年1月29日(金) 19:30～21:00 (1.5時間) 2. 平成22年2月19日(金) 19:30～21:00 (1.5時間) 3. 平成22年3月26日(金) 19:30～21:00 (1.5時間)						○	○				
39											○												○		
42											○												○		
50											○												○		
51	①ボランティアのスキルアップ ②新ボランティア養成のため	より実践向きな指導をできる様な内容	1日3時間、4回							○													○		
53																									

機関 連番	I 【1】											2 現職教員への研修													
	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修													
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず			
55	市内在住又は市内の日本語教育で学習支援を行いたいと考えている方、関心のある方を対象に支援ボランティアの基本的な知識や基礎的な日本語の教え方について学び支援できる人材を育成する。	①日本語教室及び講座概要説明 ②授業見学、講話「学習ボランティアの心構え」 ③講義「日本を教えるコーノ」文法と語彙、発音と表記(講師:大学准教授)	1日(10:00~16:00)					○	○	○		多様化する学習者への教授方法と学び、指導法の再確認を行うとともに、指導に関する疑問点の解決を図ることで指導技術の向上を目指す。	「より効果的な指導へのアドバイス」講義(講師=大学准教授)	2時間(13:00~15:00)					○						
56	主に初級クラスにおける日本語教育に携わる教師として心得るべき基本的日本語の特色(発音、表記、文法等)の取得を目的とする。	「みんなの日本語I」(株 スリーエーネットワーク)に沿って教えるべき文型、文法事項、ポイントを要約したプリントを作成し、そのプリントの内容を学習する。	2009.5.14~2010.1.21 22.5時間					○	○			1.に同じ	1.に同じ	1.に同じ					○	○					
58	ボランティアの日本語指導に対する理解を深めるため。	経験者の話を聞く。	1日2時間							○												○			
61	外国籍市民に日本語を指導する日本語支援ボランティアとして活躍してもらうために必要な心構えや知識等を習得してもらうため。	別紙のとおり	平成21年8月21日~11月27日 全15回 計30時間							○		※平成21年度は実施していません。										○			
62	なし										○	講師の養成を希望する県内ボランティア日本語教室や新たに日本語を教えたいと希望する団体に派遣することで、実践的な日本語教授法を習得する機会を提供する。 派遣先:日本語サークル「かぼちゃ」・龍ヶ崎日本語ボランティア「フレンド」・ソフィア国際交流協会・下館国際交流協会・美浦村国際交流協会・東海日本語ボランティア教室・TokaiJLTにほんご教室・那珂市国際交流協会・東海村国際交流協会・守谷国際交流協会	総研修時間を、20時間を下限、30時間を上限とする。典型的な例として、1講座 2時間×15回実施。							○					

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修														
	区分											区分														
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず				
63	年少者日本語指導の理解(新規)とスキルアップ	1. 日本人と日本語 2. 多文化をつなぐ子どもの「場」づくりをめざして「外国人児童生徒教育」の現状と課題	1. 3時間 2. 3.5時間	他市の講座に積極的に参加するように呼びかけている。	○																		○			
65	新規日本語学習支援ボランティアの養成	1)日本語学習支援活動の理解(ボランティア活動を知ってもらい、興味をもってもらおう) 2)学習支援の方法・内容を知る(自分でもやれそうだな・と思ってもらおう)	H21.6~8月に6日間、各5時間の養成講座を、山形県国際交流協会と共催で開催		○							会員の資質向上	マンツーマンレッスンをするための様々なテクニック	H21.10.18 5時間 山形県国際交流協会と共催で開催									○			
67											○												○			
68											○	ボランティアで構成された教室運営なので、定期的に「ボランティアとは何か」から始め、活動の理念・目的を共有しながら、実際に外国人が日本語を使えるようになってもらうための教え方のスキルアップ。	サバイバルレベルの日本語学習者に、覚えた日本語を日常的に使ってもらうにはどのような配慮、教え方が良いのか。 まず、2~3人のボランティアでグループを作り、その場で特定の文型をモデルに模擬授業を展開し、その授業に対して他の参加者全体で協議・検討をし、最善と思われるケースを皆(含む外国人学習者1人)で共有した。 反省:評価者の不在	5月 3時間 6月 3時間 9月 3時間	近隣市町村の国際交流協会主催の研修会に参加。 松戸市、柏市、我孫子市、つくば大学院大学 延べ16人										○	

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修																
	区分											区分																
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず						
76	識字ボランティアを養成し、多文化共生社会の実現に寄与する。	・川崎市識字学級の歴史 ・外国人の生活課題 ・学習支援の方法ほか	9/18(土)～12/18(土)全8回16時間		○			○				識字ボランティアの資質向上、スキルアップ	・「はじめての日本語」の使い方 ・会話のより上がる学習の進め方 ・就労者への日本語支援(ビジネス・コミュニケーションとは)	9月～3月全5回10時間		○			○									
77	外国人の子ども対象の日本語教室を実施するにあたり、ボランティアを養成するため	・日本語ボランティアとは(外国人とのコミュニケーション、日本語文法) ・日本語の教え方入門(教え方のポイント、教具の紹介、ドリルの進め方) ・年少者への教え方入門①(教え方の問題点とポイント、ひらがなの導入と練習) ・年少者への教え方入門②(教科の教え方とリライト方法、漢字の導入と実習)	全4回(1回2時間)					○	○			外国人の子ども対象の日本語教室を実施するにあたり、ボランティアのスキルアップを図るため	・外国人児童生徒の現状と課題 ・子どもへの日本語指導の方法と留意点 ・地域にある子どものための日本語教室の事例報告	全3回(1回2時間)		○			○									
80	無し	無し	無し							○	無し	無し	無し										○					
81	該当する研修なし。当協会は石川県日本語講師会に日本語授業を委託しており、新規に講師会に加わる講師に対する研修は講師会が独自に行っている									○	①「外国人に日本語を教たい人のための基礎講座in金沢」②「外国人に日本語を教たい人のための基礎講座in輪島」③「日本語講師スキルアップ塾 出前講座」④「日本語講師スキルアップ塾 集中講座」⑤「日本語講師スキルアップ塾 テーマ別研修会」	①地域の日本語教室で日本語を教えてみたい人を対象に、県内の在住外国人の状況、外国語学習体験、言語学習観、レディネスとニーズ、日本語の教材、教室活動のいろいろ、教室活動を考えてみる等の講座を実施②同上。地域の現状に合わせて細部を変更③県内4カ所の既存の日本語教室を対象として、教室運営や教室活動の上で課題となっていることについて各教室2回の講座を実施した④金沢会場に、県内で地域日本語教育に関わる全ての人を対象に、主に教室活動やドリルの仕方にフォーカスして研修を実施した⑤年5回、大学教授	①9月1日～10月29日 30時間 ②10月21日～12月16日 30時間 ③6月～翌年2月の間4つの教室を対象に各3、4時間×1、2回④12月5日～1月16日の間の土曜日4回 1回4時間⑤6月～翌年2月の間の土曜日5回 1回3時間															

機関 連番	I 【1】											2 現職教員への研修												
	1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修												
	区分											区分												
研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず			
83	当会社では、臨時職員が中心となり、日本語ボランティア組織「下田にほんごの会」メンバーの協力を得て「外国人のための日本語教室」を行っていたが、平成22年度より、日本語教室を「下田にほんごの会」へ運営委託することになった。そこで「下田にほんごの会」のメンバーが4名と少ないこともあり、運営及び指導が潤滑に進むよう、新規日本語ボランティア募集という形で養成講座を開催するに至った	講師：新野佳子氏（社）国際日本語普及協会(AJALT)講師による「外国語としてとらえた日本語—日本語教室の基礎知識①日本語ボランティア入門講座②テキスト「みんなの日本語初級I」を用いて外国人にどのように教えるか具体的な指導方法	H21年3月20日～21日 2日間 10時間	現在登録しているボランティア日本語教師は約20名いますが、月3～4回ある教室で、常に来てくださるボランティア教師は10名程度です。個別調査においては、ご協力いただける方5名にお願いしました。								1に同じ												
84	新規の日本語教師を対照に千葉市の実施する日本語指導ボランティア講座に参加していただき、外国人を対象とした日本語指導に役立ててもらおう。	1.「みんなの日本語」を活用した指導法を学ぶ(千葉市)(スリーエーネットワークが発行するテキストで鴨川市国際交流協会で使用している)	千葉市 3時間×16回 1名参加									千葉市国際交流センターの実施する日本語ボランティア・スキルアップ講座に参加し、基本の教え方の他に、様々な方法でも学び、日本語指導に生かす。	教科書「にほんご」を活用し、絵を使用した日本語の指導法を学ぶ。	2時間×8回										
85	(日本語ボランティア入門講座)地域の国際化が進む中、外国籍住民が自立した生活をする上で最も重要な日本語学習を促進するため日本語ボランティアを養成する。	「みんなの日本語初級I」「みんなの日本語初級II」をテキストとして「基礎I」「基礎II」全16回の講座で文法、実践教授法を学ぶ。	「基礎I」平成21年5月～8月 8回 25時間 「基礎II」平成21年9月～12月 8回 25時間									(日本語ボランティア専門講座)嶺南地域の日本語ボランティアを対照に専門的な研修講座を実施し、日本語指導技術の向上と国際交流・協力に貢献できる人材を養成する。	「これからの日本語ボランティアについて考えてみよう！」をテーマとし、土井佳彦氏(名古屋大学留学生センターとよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター)を講師として招き、専門講座を開催。	平成21年8月22日(土) 13:00～17:00(計4時間)										
86	無し									○													○	

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											
	区分											区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	
87	識字ボランティア育成を主眼に地域から多文化共生社会の実現に向けて、自ら考えて行動を持てるようになることをめざした。	・オリエンテーション ・ボランティアとしての心構え ・外国人市民の現状と課題 ・にほんご学習支援とは ・コミュニケーションの取り方について ・にほんご支援の場の作り方について ・にほんごボランティアを考える ・ゲームで学ぶ異文化体験 ・ボランティアの心構え	期間:10月～2月全15回 時間:10時～12時 受講者:35人		○			○		○													○
88	○地域に暮らす外国人に日本語を教えるための基礎的研修を行う。 ○ボランティアとして活動するための心構えや日本語の知識の習得をはかる。	○ボランティアをやるにあたって気をつけたいこと。 ○リソース型生活日本語を使つての教え方 ○学ぶ人がわかりやすい方法～シンプルな伝え方 ○教材作成…作った教材を用いてのデモ授業 ○日本語文法…動詞、助詞、敬語 ○日本語支援が必要な小中学生の具体的な指導方法	○3日間(2時間×3回)		○			○	○	○		○わかりやすく教えるための研修 ○ボランティアとしての心構え	○ボランティアをやるにあたって気をつけたいこと。 ○リソース型生活日本語を使つての教え方 ○学ぶ人がわかりやすい方法～シンプルな伝え方 ○教材作成…作った教材を用いてのデモ授業 ○日本語文法…動詞、助詞、敬語 ○日本語支援が必要な小中学生の具体的な指導方法	○3日間(2時間×3回)		○			○	○	○		
89										○													○

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											
	区分											区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	
90	外国人住民の日本語学習を支援するボランティアを養成することにより、外国人住民の日本語習得の機会を確保し、共生社会の推進に努める。	11月8日・知っておきたい在住外国人の状況・異文化コミュニケーション 11月15日・日本語ボランティアの心得・日本語文法(基本的な体系) 11月22日・グループ指導に必要な理論と技術・教材・教具論 11月29日・模擬授業の準備・模擬授業	平成21年 11月8 日、15 日、22 日、29日 (いずれ も午前9 時から正 午まで12 時間)		○							外国人住民の日本語学習を支援するボランティアを養成することにより、外国人住民の日本語習得の機会を確保し、共生社会の推進に努める。											○
92	新人ボランティアに対する指導技術の習得。	みんなの日本語初級I・IIを使った文法理解と実施(千葉市国際交流協会主催の講座に参加)	5月～9 月(56時 間) 9月～12 月(25時 間)	特になし 月一回の ミーティ ングで意見 交換する 程度で す。他、 各自教材 研究。																			○
93	当クラブはボランティアとしての日本語講座を開催しています。(週一回)	①当クラブ主催 ・外部講師による研修 ・日本語初級 模擬授業(外国人学習の協力あり) ②大学主催の日本語研修(外部講師による)	①土・日 曜日 4 時間 ②日曜日 各地区、 青森、八 戸、弘前 のクラブ 会員によ る日本語 講座、外 部講師に よる他大 学講座→ 二日間研 修合計10 時間																				○
95	本協会の日本語教室スタッフの養成だけでなく、日本語を教えることで地域に住む外国人を支援する市民ボランティアを養成することを目的としています。	石沢弘子先生をお招きし「みんなの日本語初級II」の教え方を研修しました。	12時間									日本語教室スタッフの養成、市民ボランティアの養成。	「みんなの日本語中級I」の教え方	4時間									○

機関 連番	I											2 現職教員への研修											
	【1】											区分											
	1 新規採用者への研修											区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	
97	ボランティアが、日本語を指導するための必要な情報をしり、実際に活動できるまでのスキルをみにつける。	○日本語指導ボランティア養成講座 地域における在住外国人住民の動向、日本語指導と多文化共生についての概論、みんなの日本語初級Iを使つての指導方法についての講義と、ワークショップ。 ○京都日本語学校講師による入門クラスの見学とレポート提出。	○日本語指導ボランティア養成講座 講師 京都日本語学校講師 120分×3回 ○入門クラス等の見学研修 90分×10回		○			○				日本語指導ボランティアの課題解決およびスキルアップのため	○みんなの日本語初級I 何をどう教えるか その1 4月 ○みんなの日本語初級I 何をどう教えるか その2 4月 ○初級の教え方 文法 8月 ○英語話者対象の日本語教育について 10月 ○学習者が間違えやすい日本語をどう教えるか 12月 ○やさしい日本語について 2月	上記2ヶ月に1回 年間6回 各2時間 の研修 合計 12時間	教室運営、指導についての各教室代表者による全体ミーティング 年間6回 個々の教室研修ミーティング 随時				○				
98	当協会では「市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、世界とつながる多文化共生社会をつくる」という基本理念に基づき、社会でより弱い立場におかれたり、固縁化されやすい外国人市民の自立や社会参加にむけてジギョウを行っています。当会の中心的事業である「日本語活動」では外国人市民に日本語を学ぶ場を提供すると同時に、参加するすべての人が出会い、知り合い、豊かな人間関係を築くことを目的としてます。そして、この活動に参加するボランティアが多様な人々が安心、安全にくらせる地域づくりをすすめるためにあたり求められる視点と日本語交流活動のコンセプトについて学ぶことを目的として、年に1回ボランティア養成講座を実施しています。	・当協会の活動内容・目的についての講義 ・在日外国人の現状・課題についての講義 ・ボランティアするにあたり、自分自身の動機や生活をふりかえるワークショップ ・コミュニケーション力、聴く力、声を出せる現場づくりを念頭においたワークショップ ・日本語交流活動を創造するワークショップ など	2010年9月11日 10:00－15:30 2010年10月3日 10:00－15:30 (計10時間)		○				○			日本語ボランティアが外国人をとりまく日本社会の課題を多面的に学び、活動や自らの意識をみつめ直す機会を提供する。	・在日外国人の人権をテーマとした諸セミナー・シンポジウム ・メディアリテラシー講座 ・参加型地域をテーマとしたワークショップなど	年に6～8回程度 (1回につきおよそ2時間)		○							
99	日本語教師はすべてボランティアであり、21年度新しいボランティアはいません。										○	日本語指導ボランティア講師の指導技術の向上を図るため、実践的によく使う教科書「みんなの日本語II」を使用して研修。	○「みんなの日本語II」44課～47課 石川県日本語指導講師会派遣講師により、文型の導入、展開の仕方、問題点。質疑応答 ○48課 外国人学習者を生徒とする講師による模擬授業。	21年度 3回(1回1.5時間) =4.5時間	石川県日本語・日本文化センター主催の日本語講師スキルアップ塾 テーマ別研修会に有志の方参加				○				

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修												
	区分											区分												
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず		
100	外国人に日本語を日 本語で教えるための入 門講座(日本語教師ボ ランティア希望者対象)	「みんなの日本語初 級」を基本とした文 法中心の教授法	平成21年 11月～12 月 2時 間×6回					○				現日本語教師ボラ ンティアに対するブ ラッシュアップ講座	①「みんなの日本語 初級」に入る前の退 所方法 ②初級終了後の 中・上級について 他「みんなの日本 語」を使った有効的 な授業の作り方	平成21年 12月～平 成22年1 月 2時 間×6回					○					
102	今迄多くの方の協力で 18年間続けています が、だんだん指導者の 人数が減り、やはり新 人の参入が必要と考 え、養成講座を持ちま した。	みんなの日本語を 元に、その教え方な ど15課までの指導 でしたが、但し今迄 受けた人達と違う内 容の教え方でとまど いました。養成講座 を指導する人は同 じ系列の人がいい のではないかと思 います。	1回2時 間で10回 で終了					○															○	
103	川崎市の識字・日本語 学習の理念に基づき 多文化共生社会をめ ざす。新規ボランティア の養成。	・川崎市の識字理 念 ・外国人市民が直 面する課題 ・日本語支援の場 の作り方 他	2010年9 月～10月 全10回20 時間	後半4回 は現在活 動中のボ ランティア と合同研 修	○			○		○		川崎市の識字・日 本語学習の理念に 基づき多文化共生 社会をめざす。ボラ ンティアの資質向 上。	・上手な日本語の 伝え方 ・初・中級の会話の ひきだし方 等	2010年10 月 4回8 時間	新規ボラ ンティアと 同様					○				
104	市内および近隣在住 外国人への日本語教 授方法を学び、日本語 ボランティアスタッフの 育成を図る。これによ り、在住外国人との交 流を図り、日本人と外 国人が共に地域を支え るという多文化共生が 推進されることを目的 とする。	・日本語ボランティ アの意義と役割 ・指導方法・実習体 験 ・指導方法・実習体 験(指導経験者向 け)	3日間・6 時間	吉川市と 吉川市国 際友好協 会の共催 で日本語 教室を実 施。役割(市: 場所・教 材の提 供、助成 金の支 給)(協 会:日本 語支援) ※スタッ フ総数48 名				○		○		市内および近隣在 住外国人への日本 語教授方法を学 び、日本語ボラン ティアスタッフの育 成を図る。これによ り、在住外国人との 交流を図り、日本人 と外国人が共に地 域を支えるという多 文化共生が推進さ れることを目的とす る。									○			
106	特になし										○												○	

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											
	区分											区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	
111	他の市町村も同様かと思いますが、日本語教師としての採用はありません。 大阪府の児童生徒支援加配における日本語担当者が、本市に加配されれば、日本語教員としての配置がありますが、加配されなければ皆無となります。 研修につきましては、市の外国人連絡協議会と共催での研修に多くの教職員が参加しました。目的は多文化共生教育の推進をはかることで、マイノリティの方を招いての講演です。日本語教員に関しては、府教委主催の研修で、日本語指導に対する理解や指導実践交流をしています。										○												○
113	無し										○	無し											○
114	21年度は実施せず										○												○
115											○												○
116	無し										○												○
117	すぐに実践できる日本語ボランティアの育成	・「みんなの日本語初級I・II」に沿った教授法の学習 ・「みんなの日本語初級I・II」の教案・教材の作成 ・模擬授業 ・文法、音声に関する学習 ・学習者からの質問に対してどの様に答えればよいか等の研究	1年間(約45週間)1週間に1~2回/5時間×45週=225時間	基本的には1年で研修期間は終了し、正式なスタッフとなるか? その後も研修は続く。								・教授法の習得と各自の教案の見直し ・学習者の発音の矯正法の習得	・各自の教案発表と模擬授業 ・「初級日本語文法と教え方のポイント」「音声を教える」等を使用し学習者のつまづきの解消法を考える。	毎週5時間×45週=225時間									○

機関 連番	I 【1】												2 現職教員への研修																		
	1 新規採用者への研修											区分																			
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず									
118	無し											①「中・上級日本語の教え方講座」日本語講師が日本語中上級の教え方を学ぶことで、より地域の外国人のニーズにあった日本語教室運営につながることを目指す。 ②「子ども日本語支援ボランティア養成講座」JSLサポーターや日本語講師をはじめとする外国人支援者及び外国人支援に関心を持つ者が、年少者日本語教育の概要を学ぶことにより、子どもを対象とした日本語支援に関わる人材の養成を図り、外国人児童生徒の日本語支援の充実を目指す。	①「中・上級とは…初級とどのように違う」「中・上級の『読む』『書く』『聞く』目標はどこまで?」「中・上級の読解、文法、語彙、読み取り、国語教育との違い」「中級の文章を皆で分析し、どのように教えるか考えよう!」 ②「外国にルーツを持つ子どもたちへの日本語支援について」「日本語教育と国語教育」「子ども日本語支援の実践1 日本語が全く分からない子どもへの支援について」「日本語支援の実践2 文字学習支援の事例」「日本語支援の実践3 授業についていける日本語の底力をつける～読み聞かせの実践から～」	①7月25日～9月26日/2時間×5回=10時間 ②1月30日～3月13日/3時間×5回=15時間																	
120	最低限の日本語教育の知識を持ってもらう。 ・team teachingのため「みんなの日本語I・II」を使って学習を進められるようにする。	・「みんなの日本語I・II」の教え方の概略を伝える。 ・小冊子「やってみよう!日本語ボランティア」(当協会作成)を配布(参考のため同封しました) ・実際の活動を見学及び参加(実習)	授業3回 見学及び実習(2時間×3回=6時間)	420時間の養成講座終了者や海外での日本語教師経験者は初期研修無しで、即戦力として活動に入ってもらっている。								①初級学習者対応のためのスキルアップ ②中・上級者対応のためのスキルアップ	①初級レベルの動詞一グループ分け、活用を含む文型の練習の流れ 「みんなの日本語I・II」で学ぶ動詞の種類 など ②中級とはどんなレベルか一レベルチェックのしかた、教材の選び方 など	①10月19日(月)15:30～17:30 ②10月21日(水)15:30～17:30	毎年、兵庫県国際交流協会の「日本語学習支援アドバイザー派遣制度」を利用し、研修会を実施している。明石教室のボランティアも参加。																
125	外国籍住民の日本語習得を支援する日本語ボランティアとして教え方のノウハウを学ぶ。	1.日本語ボランティアの心構え 2.教え方講義(日本語の音はここが違う・文法はどう教えるか) 3.模擬演習(これ、それ、あれの教え方・時制の教え方・文字の教え方) 4.話し合みましょう、日本語を教えるって?… 5.実際に外国人と触れ合みましょう。 6.実際に教えてみましょう>	2010年2月6日、13日、21日、28日/10:00～12:00(2時間)計8時間									教え方のレベルアップを図り、他団体とのこりゅうを深める。	東海日本語ネットワーク主催の講座に参加 (例)9月度研修運用力重視の初級テキスト「J-BRIDGE」とその使い方(講師:九州大学留学生センター准教授・小山 悟)	1/M 1.5時間に参加×各1名(4月、6月、9月、10月)																	

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修															
	区分											区分															
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず					
126	平成21年度は新規採用者への研修は未実施(新規採用なしのため)										○												○				
128	専門的日本語教員ではありませんので回答しません			聖ビンセンシオ・ボランティアグループでは現在4名がベトナム人に日本語指導を行っていますが(1名ペルー人)回答者は2名になりました。																							
129	〈日本語指導者養成講座〉日本語でコミュニケーションをとることが困難な区内在住・在勤・在学の外国人を支援するための日本語教室は、中央区に6教室あります。これらの教室で日本語ボランティアとして活動してみたい方、または新規にボランティア日本語教室をご自身で開設・運営することにチャレンジしてみたい方のための講座。	日本語教室の形態、日本語教育の基礎知識、ニーズ調査の方法、日本語教育の教室活動(基礎編)、初級のテキストと教え方、どのような教室をつくるのか、評価方法、使える日本語を教える、週に一度の教室での学び等、日本語ボランティア活動に必要な基礎知識を学ぶ。	期間:7月29日、31日、8月5日、7日、19日、9月18日、22日 時間数:20時間									①-1 日本語ボランティアのためのフォローアップ講座 平成21年度養成講座終了者の指導力を高めることを主目的とした内容の講座。 ①-2 日本語ボランティアのためのフォローアップ講座 平成22年度養成講座修了者の指導力を高めることを主目的とした内容の講座。 ② 日本語ボランティアのためのステップアップ講座 協会の日本語ボランティアおよび区内在住・在勤・在学者で、今後協会の日本語ボランティアとして活動を希望される方々のレベルアップを図るために、様々なテーマを取り上げて開催。	①-1 音声指導の方法、文字指導の方法、算出能力、読む力をのばすためのオーソドックスな指導手順等。 ①-2 評価の仕方、教科書の構成を知る、教科書を使ってみる、自分にあったボランティアを考える、非母語話者からみた日本語、日本で生活する人々について、生活に必要な日本語とは等。 ②新しい日本語能力試験について、学習者の日本語レベルのとらえ方、日本の学校で学ぶ年少者への支援、初級教材と文法、レベル差を考慮した日本語支援等。	①-1 期間:4月23、24日、5月14、15日 時間数:8時間 ①-2 期間:9月25日、30日、10月7日、28日、11月4日、11日、18日 時間数:16時間 ② 期間:6月26日、9月29日、10月16日、12月18日、1月26日、2月23日、3月12日 時間数:14時間													○
131	無し			無し							○												○				
132	富士市国際交流ラウンジ主催の日本語ボランティア養成講座	基本的な日本語の特徴、文法、教え方	週1回2時間×10回					○	○			富士市国際交流ラウンジ「日本語ボランティアステップアップ講座」	・子どもへの日本語支援について ・グループ学習での教案、教材について ・富士市で暮らすための日本語テキスト(初心者用)作成	隔週1回2時間×10回									○				
133	ボランティア団体のため特に初任者研修は行っていません。										○												○				

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修												2 現職教員への研修											
	区分												区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず		
134	多数の外国籍市民が暮らす本市の状況から毎年「生活は言葉から」を基本とした日本語教室を開催している。日本語教室の開催及び運営はボランティアスタッフに寄るところが大きく、本講座を通して日本語教室に携わるボランティアスタッフを養成し、日本語教室の充実を図ることが目的である。	・現代に至るまでの日本語教育の流れ ・外国人に日本語を教える際に必要な知識や方法について ・日本語教育で使われる文法と教材について ・教材分析、模擬授業など	平成21年10月8日～12月24日(週1回、全10回、各回2時間)隔年実施	日本語ボランティア養成講座を修了した受講生で、希望する者に関してはボランティアスタッフとして登録ができる。	○			○				日本語教育指導力向上を目的とする。	・「みんなで日本語」(スリーエーネットワーク)のテキストに沿ってモデル授業を行なう。 ・授業方法の検討及び授業の流れの理解などを外国語学院の講師を招いて実施している。	平成21年5月から毎月第一土曜日(午前10時～12時)の2時間実施している。	上記の研修の他に、助詞、形容詞の指導方法の研修会を実施した。(1日2時間を2日間にわたり実施。)									
138	新任者研修は特に無し(現職研修と同じ)										○	ボランティア講師が授業時に直面した諸問題に関して大学教授から専門的な助言を得て、個々人の指導力の向上を図るとともに、全講師でノウハウを共有する。	ボランティア講師が抱える諸問題(指導方法、教材・内容、日本文化など)を集約し、質疑応答形式で、大学教授から助言を得る「フォーアアップ講座」を実施。原則として全講師が受講。	年鑑3回、各回約3時間、延べ9時間	他機関(主に他市国際交流協会)主催の諸講座を案内し聴講を推奨している。								○	
140	無し	無し	無し								○	授業の改善	教案のチェックとディスカッション、改善	随時/年に4～5時間程度									○	
142	学習者に対する基本的指導の習得	・カリキュラムの作成 ・学習始めの導入部の重要性を習得する ・いきなり本題にはいかない ・教える人の発言を3割位、学習者に7割位話するよう努力する ・身近かな物や状況を最大限利用する	3ヶ月位、20時間	宗教・政治・スポーツを話題にしない				○				スキルアップ	・日本語会話の文法 ・質問を事前に集め、それに対して回答する	当会での研修は3時間2回。他の会の学習に参加し、この内容を会員に伝える…2回									○	
143	小金井市在住、在勤の外国人に、レベルにあった日本語を教える。(小金井市の文化活動も含む…小金井公園で花見など)	「みんなの日本語」を軸に上級クラスは自由会話、初級には50音から。	毎週土曜日10:30～12:00					○				お互いのレベルアップ。意見交換。	話し合いで内部講習会(日本語教育について関心の高いものから選ぶ)と外部講師を招いての講習会と両方。	月1回/2時間									○	

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修														
	区分											区分														
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず				
144	日本語教室受講者増加に伴うボランティア講師確保のため	ボランティアで日本語を教えるための教案づくりや実習など ・地域の日本語教育を考える ・教授法 ・日本語学習者にとって理解しにくい日本語は？ ・日本語支援をするために必要なこと ・教える前に考えること ・教えるための準備など	平成21年10月6日～平成21年12月8日(9日間)／1日2時間×9日間＝18時間		○																			○		
145											○													○		
146	日本語学習をしえんするための新規ボランティア講師の養成	・日本語教授法の基礎(文法、導入方法など) ・教案作成方法(「みんなの日本語初級I」を使用)	機関:5日間 時間数:約15時間																					○		
147	ボランティアの人数が減り、学習者の人数が多くなったため新規ボランティアを募集する必要があったため(市の社会福祉協議会主催の講座)	YMCA教師による講座 ①多文化理解と日本語ボランティアの役割 ②文法の基礎知識 ③中上級の教え方 ④初級テキストを使つての教え方 ⑤会話の教え方	毎日曜日2時間×10回(20時間)									会員のレベルアップ 向上の為	勉強会と講師によるレベルアップ講座 ①初級の教え方と模擬授業 ②中上級の教え方と模擬授業 ③日本語能力試験新旧の違い ④初級文法 ⑤「みんなの日本語中級I」の教え方	月1回／2時間×12回(年24時間)×		○										
148	無し										○	日本語ボランティア講師のスキルアップ	日本語ボランティア初級講習会 ・日本語教室の役割 ・日本語が全く分からない人とのコミュニケーション ・日本語のシズンな発想 ・会話の工夫 ・長音のルール、格助詞 ・「現代仮名遣い」までの経緯	平成22年3月23日(火) 19:00－20:45											○	○

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											
	区分											区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	
150	府中市国際交流サロンが実施している府中市内在住の外国人を対象とした日本語学習会のための新規市民ボランティアの教師養成を目的とする。	「日本語教授法初級I」の名称で未経験の市民ボランティア対象の日本語学習会教師養成のための研修で「みんなの日本語初級I」の第1課から25課を使って初期段階での実践的会話力を養成する。	平成21年5月13日～平成21年7月1日／全8回 毎週水曜日午前10時～12時／全16時間				○					現在本サロンで活動しているボランティアを対象として日本語指導の実践力の養成とより高い指導力を身につけることを目的とする。	「日本語教授法 初級II」という名称で「みんなの日本語初級II」の26課から50課までを使って日本語教授法指導力のスキルアップを目指す。模擬授業などを取り入れてジツタイに即した内容とし、日頃抱える疑問を解決することにより指導上の不安等を解消し、指導力の強化を図る。	平成22年2月3日～平成22年3月10日／全6回 毎週水曜日午前10時～12時／全12時間				○					
152	地域の日本語ボランティア養成	・日本語のボランティアはどのような活動をするのか ・基本的な初級文法の教え方	3時間×2日間				○		○			「外国語を直説法で習う」というのはどんなことか体験する。	「モンゴル語を習う」モンゴルの留学生に基礎的な授業をしてもらった。	3時間				○					
154	ボランティア研修会ー日本語ボランティア・入門編	日本語ボランティアとして、サポートする上で必要なこと、ボランティアの役割、日本語の教え方についての研修会	平成21年5月～6月で計7回実施 1回1.5時間×7回＝10.5時間				○		○			ボランティア研修会ー日本語ボランティア・発展編	第1回「学習を始める前にー学習者のニーズを知る」地域の日本語教室では学習者一人一人に合った日本語学習の支援が必要です。そのために学習者のニーズや日本語のレベルをある程度つかんでおいた方がうまく活動を進めることができます。ニーズとは何か、どのようにレベルを測るか、その法について知識を深めます。 第2回「『読む』活動の進め方」中級レベルの学習者の日本語力を伸ばすにはどんな活動をすればいいかー「読む」ことを通して多くの言葉や表現を身に付けていくのも一つの方法です。「読む」活動の進め方、教材の選び方、また似たような意味のことばの扱い方や中級文型の特徴について学びます。 第3回「『話す』活動の進め方」	第1回 1月24日 1.5時間 第2回 2月21日 1.5時間 第3回 3月21日 1.5時間				○					

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修												
	区分											区分												
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず		
155	新規教室の開講にあたり、初期日本語指導に対応できるよう、理論と実践を学ぶ。	・外国人住民を支えるための、地域日本語教育システム作り ・モデル授業への参加と振り返り ・学習者の日本語運用力を伸ばすための教室活動	全6回(各2時間)					○		○		・入門・初級レベル者への指導について学ぶ。 ・生活者に対する日本語教室のありかたについて、教室運営の側面から学ぶ。	・入門、初級レベル者に対する、コミュニケーション型授業の実践例を学ぶ ・地域の日本語学習支援システムをどう構築していくのか、どのようにネットワークを作るのかを、運営者の立場で考える。	全1回×2回(各2時間)								○	○	
156	初めて日本語指導をする方に、自身で活動を進めるためのヒントを掴んでもらうため。様々な教授法(練習法)、教材(文字や絵カード等)があることを知ってもらい今後の活動に役立ててもらおう。	数年間、参加しているボランティアが講師となり進める。 ①ひらがなの教え方 ・用語解説(アクセント(高低・強弱)、音節、拍(モーラ)、特殊音、拗音) ・フラッシュカードや絵カードの活用法 ・書き方や発音の指導のときの意識 ・学習者の起こしやすいエラーについて紹介 ②教案の書き方について ・ニーズ・レディネス調査とは ・教案の作り方(実際の例をみて) ・教材紹介	①平成21年7月25日(土)／19時～20時30分 ②平成21年8月26日(水)／19時～20時30分 計3時間					○	○			無し	無し	無し									○	
157	中国／サハリン帰国者に対する日本語日本事情教育、学習支援及び支援者支援を行うために必要となる知識と技能の習得	○国内の帰国者の状況と公的支援制度について ○学習者の背景・学習者像・学習状況等についての説明 ○授業見学・授業研究 ○学習支援(遠隔学習課程)の演習 ○内部研修会(現職研修を目的とするもの)への参加等々	○期間・時間数として特定できない		○							①機関内部の常勤講師を対象とした現職研修:中国／サハリン帰国者に対する日本語日本事情教育、学習支援及び支援者支援を行うために必要となる知識と技能の向上 ②機関外部(全国)の遠隔学習課程スクーリング講師を対象とした現職研修(初任者も含む):スクーリングにおけるスキルアップ	①当センターでは、中国／サハリン帰国者に対する日本語日本事情教育、中国／サハリン帰国者に対する学習支援及び支援者支援の展開・改善を目指し、調査研究及びカリキュラム開発(教材作成を含む)等複数のプロジェクトを並行して進めている。このプロジェクトの推進は現職研修を兼ねるものである。定期的に行っている研修会では、これらのプロジェクトの経過報告・成果報告を中心とした内容になっている。 ②年度別テーマにそった研修(レクチャー、演習、協議等) 平成21年度のテーマ:「高齢帰国者へのスクーリング指導/遠隔学習課程及びス	①定期研修会は年2回/計10時間程度 不定期のもの、現職研修を兼ねたプロジェクト遂行のためには、期間・時間数は特定できない ②年1回2日間/計7時間		○								○

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修												2 現職教員への研修													
			区分											区分												
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず				
159	日本語学習支援ボラン ティア養成(新規、初任 者入門研修) 養成に伴い、川崎市の 多文化共生社会に関 する理念、括弧また具 体的な教授法について 学ぶ。	①ボランティアの体 験談を聞いて、学級 を見学 ②日本語学級と は？日本語学習と は？ ③異なる文化を持 つ人が集まって日 本語を学ぶとき、ど んなことに留意すれ ばいい？具体的な 学習場面を考えま す① ④にほんごひろば の行事「スポーツ交 流会」に参加しよう ⑤異なる文化を持 つ人が集まって日 本語を学ぶとき、ど んなことに留意すれ ばいい？具体的な 学習場面を考えま す②	①10月14 日 (水)18:30 ～20:30 ②10月 21・28日 (水)18:30 ～20:30 ③11月4 日 (水)18:30 ～20:30 ④11月11 日 (水)18:30 ～20:30 ⑤11月18 日 (水)18:30 ～20:30 計6回/ 2時間× 6回=12 時間		○								現役ボランティアへ のブラッシュアップ 研修(教材、教授 法、市の施策、理念 など)	①日本語教授法を 地域への支援に生 かす(全体向け) ②日本語教授法を 地域への支援に生 かす(ビギナー初級 向け) ③日本語教授法を 地域への支援に生 かす(中・上級向け) 講師：神奈川大学 准教授 富谷玲子 先生	①9月29 日 (火)18:45 ～20:45 ②11月24 日 (火)18:45 ～20:45 ③12月1 日 (火)18:45 ～20:45 計3回/ 2時間× 3回=6 時間									○		
160	日本語学習支援ボラン ティア活動に興味を持 つ方を対象に日本語 教授能力を身に付けて もらうことを目的とする	日本語教授法の基 礎を学ぶとともに外 国産職者に対し ての日本語指導方 法を学ぶ(面接の仕 方、履歴書の書き 方等)	平成21年 8月24日 ～9月14 日/ 10:00～ 11:00(毎 週月曜日 全4回= 計6時間)										日本語ボランティア 講師経験者を対象 に、ことばの分析力 を身に付けてもらう ことで日本語教授 能力を向上させ今 後の日本語指導に 役立ててもらふこと を目的とする	・地域日本語支援 における教室コー ディネーターの役割 ・自己表現+交流 型の日本語活動の すすめ	平成22年 2月27日 (土)/4 時間										○	
161										○														○		
163	地域において外国人と 日本人が相互に理解 しあひながら共生して いく手段の1つとして外 国人に日本語を教える 活動が重要である。 その活動に携わるボラ ンティアを育成するた めの講座として、日本 語ボランティア養成講 座を実施する。	・日本語ボランティ アに必要な基礎知 識 ・学習者との実習	①4月24 日～6月 26日/毎 週金曜日 14時～16 時・全10 回・20時 間 ②10月2 日～3月 26日/毎 週金曜日 10時～12 時・全20 回・40時 間										活動中の日本語ボ ランティアの技術向 上のため	・ボランティア日本 語教室の運営につ いて ・アイスブレーキン グから話す場づくり へ ・文型を意識しない 文型的活動 ・絵を使ったコミュニ ケーション ・自分が話している 言葉を聴いてみよう 他	①7月28 日(月)～ 8月31日 (月)/10 時～12 時・全6 回・12時 間 ②11月26 日(木)～ 2月18日 (木)/10 時～12時 または14 時～16 時・全6 回・12時 間	各回は独 立した テーマ・内 容であ り、各回 ごとの参 加が可能										○

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修											
	区分											区分											
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	
164	多文化共生にに向けて、地域に居住する外国人の日本語学習支援活動をするボランティアの育成及び発掘。	大学やボランティア団体から講師を迎え、生活者としての日本語を教えるということ、効果的な指導法、教材の使い方等を学ぶ。また現役ボランティアと交流する機会を設ける。 対象：地域ボランティアとして①外国人の日本語学習支援をしたい人②外国人の日本語学習支援をしている人	10月中旬～11月中旬／120分×4回				○					日本語講習会指導者(ボランティア)の技術の向上と安定。	大学やボランティア団体から講師を迎え、効果的な指導法を学ぶ。	11月中旬～下旬／120分×2回				○					
168	「守口市国際交流友の会」で日本語ボランティアとして活動するため	・「みんなの日本語初級I」を使い、日本語ボランティア活動に必要なノウハウや基礎知識の習得(10回) ・「守口市国際交流友の会」で現在活動中の日本語ボランティアとの交流会(1回)(※実際の活動内容や指導に関する疑問やアドバイスを受ける)	研修期間：2009年5月10日～7月26日(全11回) 時間数：16.5時間				○		○		実施せず												○
171	「初級日本語ボランティア養成講座」(ボランティアとして加わって下さる人を対象に入門編)生徒数は50名位になる為ボランティア講師が不足しがちなので、新規ボランティアを募集し、外国語としての日本語教育を理解、習得して頂いた上で、半年間現場で実習・研修を行い、正式メンバーとなって頂く。	・外国語としての日本語を理解 ・未知の外国語(ex.中国語他)を直説法で実際に学んで、生徒の側の難しさを納得する。 ・教授法ガイダンス(導入法、教案作り、副教材紹介etc.) ・「みんなの日本語初級I」、要点整理と指導法 ・実習、模擬授業	平成21年9月～12月(毎週火曜日)12回/全30時間	・講師：茨城県日本語教育アドバイザー ・後援：日立国際交流協議会 ・実動や運営は日本語ボランティア団体のメンバーが行う			○	○			ボランティア講師の更なるレベルアップの為に、他のボランティア日本語教室の講師と共に年一回、研修・意見交換会を行う。	・「みんなの日本語初級II」の内容を中心に要点整理、教え方 ・具体的な質問事項を取り上げる(ex.助詞について・条件文・動詞・形容詞・発音etc.)	平成22年1月に3回(全10時間)	・講師：茨城県日本語教育アドバイザー ・後援：日立国際交流協議会 ・運営：日本語教育ボランティアのメンバー				○					

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修																		
	区分											区分																		
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず								
174	①日本語を教える人になりたい！日本語ボランティア活動に興味のある方を対象に、日本語を教えるということについて体感できるガイダンスを開催した。 ②日本語ボランティア養成講座(多文化共生センター) ③日本語ボランティア養成講座(外国人学習支援センター) 就労支援コース、地域支援コース(地域の在住外国人、失業中の外国人を支援するための知識・技術を学び、ボランティアを養成した。)	①国際交流協会日本語ボランティアとして活動されている方々を講師として、日本語教室の授業体験、手作りの教材を披露、自身の経験談を語るなど、ボランティア活動の魅力を伝えた。 ②日本語教育で必要とされる基礎的な知識や模擬授業など実践的な技術に関する講義を行った。 ③「地域」「就労」にテーマを分け、各分野で活動・研究されている講師、支援を受けた学習者にご登壇頂いた。	①平成21年4月18日(土)14:00～15:30 ②平成21年5月23日～8月8日 毎週土曜日14:00～17:00 ③就労支援コース平成22年2月3日～3月24日 毎週水曜日14:00～15:30 地域支援コース平成22年1月29日～3月26日 毎週金曜日10:30～14:30									①日本語教師のためのパソコン教室 パソコンを使用することでより効果的な教室運営に繋げるためのスキルアップ講座。 ②日本語ボランティアスキルアップ講座(外国人学習支援センター) 在住外国人への日本語学習支援をはじめとする外国人を対象とした様々な支援活動を行う人に対して、多角的な情報の提供と活動のあり方について再考する機会とする。	①レベル別にパソコンを使用した教案、教材の作成方法を学んだ。 ②各テーマごとに、その分野で第一線でご活躍されている方々を講師としてご登壇頂いた。 1)「地域日本語教育の新しい試み」春原憲一郎((財)海外技術者研修協会) 2)「日本語学習ニーズの実態」金田智子(独立行政法人国立国語研究所) 3)「地域を支える外国人財」岡野有秀(社会福祉法人) 4)「青少年の心と言葉の壁」豊田昌(静岡県警察本部)	①平成21年8月25日(火)～8月27日(木)13:00～17:50 ②1)平成22年1月18日(月)10:30～12:00 2)平成22年2月8日(月)10:30～12:00 3)平成22年3月1日(月)10:30～12:00 4)平成22年3月15日(月)10:30～12:00		○														
178										○													○							
179										○	教育技術の向上	使用教科書の内容、教え方等についての検討	月2回 2時間程度										○							

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修																				
	区分											区分																				
	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期間・時間等	その他	社会・文化・地域	言語と社会	言語と心理	言語と教育	言語	その他	実施せず										
182	今後当会において日本語教師として活躍できる人材を育成することを主要目的とする。具体的には、在日外国人への協力活動に関心があり、日本語を教えることによりその活動を行いたいという意志はあるが日本語教育についてはほとんど白紙の状態の受講者に、直接法で初級日本語を教えるための基本的知識、教具教材の使い方、主要文法項目別の教授法などを教授し、また実際に教案を作成し実習を体験させることにより、各受講者が自信をもって活動に参加できるようにすること、を目的として実施した。	次の3つの部門について研修した。 1.日本語に関する基礎知識、日本語教育概要及び日本語教授法に関する基礎知識に関する講義 2.初級日本語における主要文法事項及びその教授法についての講義 3.教案の作成と実習。当会で実際に使用している教科書「日本語初歩」を基本教材に、「新日本語の基礎」を参考教材とし、それらに準拠した講師のオリジナルテキストにより講義を行った。講義内容に即して必要な教具、教材、配布用プリントなどを用意し、それらの使い方を教授するとともに、実際に使用させて実践的に教え方を体得させた。教案作成では何回かの添削を経て、導入、展開、定着の手順を学び、実習で	1週1日で全10日間であるが、期間としては約2カ月半に亘った。午前・午後に分けて1日2講義、全20講義を行った。1講義90分で、計30時間。									実施せず												○								
183	①日本語の教え方入門講座：新規日本語ボランティアの発掘 ②日本語ボランティア勉強会：新規日本語ボランティアの育成 ③外国人に日本語を教えたい人のための講座：新規日本語ボランティアの発掘 ※③は(財)福島県国際交流協会主催、当協会共催	①日本語ボランティアの活動について、日本語の教え方のポイントについて講師 当協会日本語ボランティア 対象 日本語ボランティアとして活動したい方、外国人の日本語教育に関心がある方 ②日本語の教え方のポイントについて講師 当協会日本語ボランティア 対象 当協会日本語ボランティア新規登録者 ③日本語ボランティアとしての基本的な知識者心構えについて講師 NPO法人ヤマガタヤボニカ副代表・理事 横沢由実先生 対象 外国人へ日本語を教えることに興味がある方	①平成21年4月11日(日)13:30～15:30 ②夜間コース：平成21年4月22日(木)～7月1日(木)／毎週木曜日18:30～20:00(全12回) 午前コース：平成21年4月23日(金)～6月25日(金)／毎週金曜日10:00～11:30(全12回) ③平成21年6月21日(日)～7月5日(日)／毎週日曜日10:00～16:00(全3回)									①日本語ボランティア勉強会：会津喜多方国際交流協会の日本語ボランティアを対象としたスキルアップ講座 ②日本語ボランティア勉強会：当協会の日本語ボランティアを対象としたスキルアップ講座 ③日本語教授法講座：日本語ボランティア経験者を対象としたスキルアップ講座 ④子どもサポートスキルアップ講座：外国にルーツを持つ子供の受入れ体制、サポートについて考える ⑤日本語ボランティア勉強会：活動経験が浅い日本語ボランティアを対象としたスキルアップ講座 ⑥日本語教授法ミニ講座：日本語ボランティアを対象としたスキルアップ講座 ※①は会津地域日本語教室開催支援事業として実施	①品詞について、動詞の活用形について講師 福島大学人間発達文化学類 准教授 中川祐治先生 対象 会津喜多方国際交流協会活動中の日本語ボランティア ②各ボランティアが作成する教案、使用教材へ個別にアドバイス 講師 (財)いわき市国際交流協会専任日本語講師 原しのぶ先生 対象 当協会活動中の日本語ボランティア ③音声表現の指導方法について、国別学習者の発音指導方法について講師 早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 戸田貴子先生 対象 活動経験のある日本語ボランティア ④子どもの良さを引き出すコミュニケーションスキルについて講師 会津大学短期	①平成21年8月30日(土)13:30～16:30 ②平成21年9月24日(木)18:30～20:30、25日(金)10:00～12:00 ③平成22年2月27日(土)10:00～16:00 ④平成22年3月7日(日)13:00～16:00 ⑤平成22年3月14日(日)12:30～15:30 ⑥平成22年3月18日(木)18:30～20:30、19日																		○
186	該当なし										○													○								

機関 連番	I 【1】 1 新規採用者への研修											2 現職教員への研修												
	区分											区分												
	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず	研修目的	研修内容	研修期 間・時間 等	その他	社会・文 化・地域	言語と社 会	言語と心 理	言語と教 育	言語	その他	実施せず		
187	授業において経験が 少ない場合、授業内容 をチェック。一人立ちを 目指す。	実習指導(個別に 授業をさせ、チェッ ク・フィードバック)、 教案チェック	60時間(1 ~3ヶ月)				○					日々の授業に追わ れて、授業のマンネ リ化を防ぐため。	教案のチェックとセ ミナー開催	約10時間					○					
189	当協会日本語講座講 師等を対象として、初 級日本語文型の教え 方を検討する場を設け 参加者のスキルアップ を図るとともに、参加者 同士の連携構築の一 助とする。	初級文型を毎回い くつか取り上げ、グ ループ毎に割り当 てられた文型につ いて、導入や練習 の仕方などを検討 し、まとまった案を 全体で発表する。	毎月1 回、2時 間30分				○					県内で日本語学習 支援活動に従事す る人を対象として、 日本語学習支援に 関するテーマで講 義やワークショップ を行い、参加者のス キルアップを図る。	対話中心の学習活 動を行うための具 体的な手法につい ての講義	4時間					○					
190	新規採用者への研修 は行っていません。										○	「生活者としての外 国人」の生活実態と 課題を発見し、ボラ ンティアの日本語指 導に役立てるか自 分で考えていく。	1.「生活者としての 外国人」の生活実 態と課題の発見 2.「生活者としての 外国人」のための 地域の日本語教室 を考える 3.「地域日本語教 室」のコースデザ インを考える 4.発表・意見交換	平成21年 7月22日 ~8月12 日の4回 (週一回・ 2時間)		○								
191	「ハスの会」は全員ボ ランティアの指導員で やっています。日本語 教師の研修会はやっ ておりません。 ボランティア同士で指 導上の問題が発生した 時は、指導終了後話し 合いをして解決するよ うにしています。										○	行っていません											○	
193	船橋市内の公立小中 学校に在籍する帰国・ 外国人児童生徒への 日本語指導・適応指導 の充実を目指し、研修 会を実施する。	1.本市非常勤職員 による講演やワーク ショップ (1)小中学校におけ る日本語指導の実 際 (2)JSLカリキュラム の考え方と実践 ワークショップ (3)日本語指導に役 立つWebサイト紹介 2.外部講師による講 演とワークショップ 3.各校担当者による 情報交換	1.平成21 年4月10 日(金)2 時間 2.平成21 年5月15 日(金)3 時間 3.平成21 年6月25 日(木)3 時間 4.平成22 年2月26 日(金)3 時間				○		○			前頁の「1.」と同じ											○	
194	なし										○												○	
計			計		18	0	0	58	11	31	41			計		9	0	0	57	10	13	41		

機関 連番	機関名	【2】 1 採用			2 退職 者					19年度 2 退職 者					20年度 2 退職 者					21年度 2 退職 者					3 理由					19年度 3 理由					20年度 3 理由					21年度 3 理由				
		19年度	20年度	21年度	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~1 0年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~1 0年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~1 0年	⑤10年 以上	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明					
63	センシティ土曜にほんご学級(任意団体)	0																																										
65	日本語学習支援ボランティアベにはな会(略称:べにはな会)																																											
67	富士宮市総務部くらしの相談課																																											
68	取手市国際交流協会																																											
70	神戸市立神戸生田中学校	本校																																										
71	公益社団法人国際日本語普及協会	0	0	1	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
75	豊明市国際交流協会																																											
76	川崎市中原市民会館	5	5	1	000	210	200	010	000	0	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	000	110	000	210	100	0	1	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0		
77	安城市国際交流協会	該当なし			該当なし					該																																		
80	流山市教育委員会	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
81	(財)石川県国際交流協会	0	0	0	000	000	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																				
83	財団法人 下田市振興公社																																											
84	鴨川市国際交流協会	1	1		000	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	000	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
85	(財)福井県国際交流協会																																											
86	多治見国際交流協会																																											
87	川崎市多摩市民館																																											

機関 連番	機関名	【2】 1 採用			2 退職者					19年度 2 退職者					20年度 2 退職者					21年度 2 退職者					3 理由					19年度 3 理由					20年度 3 理由					21年度 3 理由								
		19年度	20年度	21年度	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~10 年	⑤10年 以上	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明														
114	南相馬市国際 交流協会	1	1	1																																												
115	広島市中国帰 国者友好協会 日本語教室																																															
116	オルビス																																															
117	日本語教室ペ ラペーラ																																															
118	磐田国際交流 協会																																															
120	神戸中国帰国 者日本語教育 ボランティア協 会																																															
125	幸田町国際交 流協会																																															
126	(財)板橋区文 化・国際交流 財団		17		000	022	232	100	000	0	0	2	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	2	2	0	0	000	000	000	354	000	0	0	0	3	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	4	0
128	鷹取土曜学校																																															
129	中央区文化・ 国際交流振興 協会																																															
131	愛知県みよし 市																																															
132	富士にほんご の会																																															
133	柏市国際交流 協会日本語委 員会																																															
134	伊勢崎市国際 交流協会																																															
138	我孫子市国際 交流協会																																															
140	異文化教育研 修所有隣館																																															

機関 連番	機関名	【2】 1 採用			2 退職者					19年度 2 退職者					20年度 2 退職者					21年度 2 退職者					3 理由					19年度 3 理由					20年度 3 理由					21年度 3 理由						
		19年度	20年度	21年度	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~1 0年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~1 0年	⑤10年 以上	①1年 未満	②1~3 年	③3~5 年	④5~1 0年	⑤10年 以上	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明	①他の 日本語 教育機 関	②別の 職業に 転職	③大 学・大 学院へ の進学	④その 他	⑤不明												
142	さかえ・日本語の会				000	001	000	000	010	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	001	010	000	000	000	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
143	小金井市生活日本語教室																																													
144	厚木日本語ボランティアの会																																													
145	札幌日本語クラブSNC																																													
146	香取市国際交流協会																																													
147	池田日本語ボランティア友の会																																													
148	鶴ヶ島市国際交流協会																																													
150	府中市国際交流サロン																																													
152	旭川日本語の会																																													
154	(財)八尾市国際交流センター																																													
155	横浜市国際交流協会																																													
156	長浜ユネスコ協会																																													
157	(財)中国残留孤児援護基金中国帰国者定着促進センター	1	3	1	000	111	000	000	000	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	011	000	000	100	000	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
159	川崎市教育文化会館																																													
160	太田市国際交流協会																																													
161	ISIランゲージスクール																																													

機関 連番	機関名	【2】 1 採用	2 退職者 ①1年未満 ②1～3年 ③3～5年 ④5～10年 ⑤10年以上	19年度 2 退職者 ①1年未満 ②1～3年 ③3～5年 ④5～10年 ⑤10年以上	20年度 2 退職者 ①1年未満 ②1～3年 ③3～5年 ④5～10年 ⑤10年以上	21年度 2 退職者 ①1年未満 ②1～3年 ③3～5年 ④5～10年 ⑤10年以上	3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明	19年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明	20年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明	21年度 3 理由 ①他の日本語教育機関 ②別の職業に転職 ③大学・大学院への進学 ④その他 ⑤不明
		65		14	16	11		13	16	11